

1 グリーンインフラとは

住みやすいまちをつくる社会基盤施設（インフラ）に、海、河川、池、緑地等の自然環境（グリーン）が有する機能を活用することで、まちづくりの課題解決につなげる取組です。
本計画は、令和6年度～令和10年度を目標年次とした計画です。



2 みどりのまちづくりにおけるグリーンインフラ視点の課題

防災・減災

- 【課題】
- みどり空間を活用した内水氾濫の軽減
 - 内水氾濫等に対する防災・減災意識の向上



環境

- 【課題】
- 暑熱環境の改善に寄与するみどりの創出
 - 快適な住環境の創出につながる質の高いみどりの創出



地域振興

- 【課題】
- にぎわい空間の創出
 - 身近なみどりによる景観形成



3 グリーンインフラの推進に向けた方向性

■大田区におけるグリーンインフラ推進方針の考え方

- ①自然環境が有する多機能性を十分に発揮させる
- ②分野横断の視点を加味し更なる効果を引き出す
- ③多様な主体と連携しグリーンインフラを使いこなす

■グリーンインフラ推進方針

グリーンインフラの導入は、「**防災・減災**」、「**環境**」、「**地域振興**」の3つの視点から多様な効果が期待されます。
自然環境が有する機能を利活用することで、単独の効果を促すだけでなく、複合的な効果を誘導し、地域が抱える様々な課題解決につなげていきます。

防災・減災

- ① 内水氾濫による浸水防止、外水による河川氾濫を抑制する雨水流出抑制を図るための、公園・緑地、道路空間における**雨水貯留・浸透機能の確保**

環境

- ① 市街地における屋外での快適な活動を行うことのできるみどりを活かした**暑熱環境の緩和**
- ② 豊かな生態系の保全・育成する**拠点**となるみどりの確保、**拠点**となる**みどりのネットワーク形成**
- ③ **居心地のよい都市空間を形成**するみどりの創出

地域振興

- ① 都市拠点における**公民連携**による**にぎわい形成**に寄与するみどりの創出
- ② 駅周辺をはじめとする空間の魅力や、観光拠点としての風格を高めるみどりの創出による**街の付加価値の向上**
- ③ 区民にとっての憩いと交流の場となる公民連携による快適なオープンスペースの形成と維持管理

大田区グリーンインフラ事業計画の策定について

4 類型別グリーンインフラ導入方針

大田区の地形は、グリーンプランにおいて、台地部、低地部、空港臨海部に大別しています。
また、特徴的な地形や用途に応じて土地利用を分類し、公園・緑地や市街地等の各区分に応じたグリーンインフラ導入方針を示しました。



大田区グリーンインフラ事業計画の策定について

5 グリーンインフラの取組例

▶ 区民農園の整備(田園調布区民農園跡地)

- ・ 雨水の一時貯留による
内水氾濫の抑制・防止 **防災・減災**
- ・ みどり空間の保全 **環境**
- ・ 地域コミュニティの形成 **地域振興**
- ・ 農業体験ができる場の提供 **地域振興**



▲ 南馬込区民農園



▶ 雨水貯留施設の設置、
透水性舗装の整備

- ・ 雨水の一時貯留による
内水氾濫の抑制・防止 **防災
減災**



▲ 雨水タンク



▲ 透水性舗装
(馬込桜並木)

6 グリーンインフラ推進に向けた目標

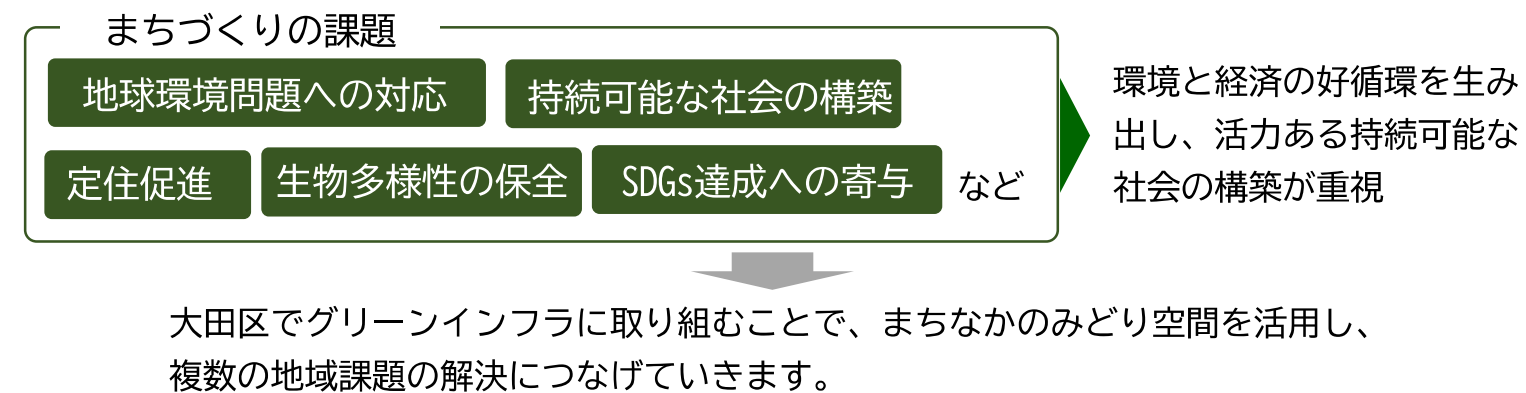
防災・減災、環境、地域振興の視点からグリーンインフラを推進するための目標を設定します。目標値は毎年進捗管理を行います。

減災・ 防災・ 環境	目標 推進	民地・公共施設における雨水の一時貯留 《目標値》 各敷地を対象に、グリーンインフラ機能による降雨5.5mm/h分の雨水貯留・浸透量の確保を目指す。
	目標 推進	緑の多さの満足度の向上 《目標値》 区民による“緑の多さ”に関する満足度について、70%を目指す。
	目標 推進	みどり空間の維持管理による避暑機能の充実 《目標値》 グリーンプランで示す9つのみどりの拠点について、木陰等における体感温度-7℃を目指す。
地域振興	目標 推進	生物生息空間の保全・創出 《目標値》 公共施設における生物生息空間(公園・緑地、学校のビオトープ等)の箇所数を基準値として、それらの保全・創出を目指す。
	目標 推進	大田区への定住意向の確保 《目標値》 区民による“定住意向”について、85%を維持・向上する。
	目標 推進	住んでいる街の魅力度の確保 《目標値》 区民による“住んでいる街の魅力度”について、70%を維持・向上する。

■ グリーンインフラとは

住みやすいまちをつくる社会基盤施設（インフラ）に、海、河川、池及び公園等の自然環境（グリーン）が有する機能を活用することで、まちづくりの課題解決につなげる取組です。

■ グリーンインフラが求められる背景と意義



グリーンインフラ導入に伴う留意点

- 自然環境が有する多機能性を十分に発揮させるみどりの取組推進
- 公民連携や分野横断の視点を重視して取り組む連携体制の構築



■ グリーンインフラ事業計画の位置づけ

グリーンインフラ事業計画は、「大田区基本構想」、「大田区基本計画」及び「大田区都市計画マスタープラン」に則している「大田区緑の基本計画グリーンプランおた」（以下、グリーンプランという）において、重点的な取組の一つに位置付けられています。

■ 大田区を取り巻く動向

（１）社会的動向

- ①ネイチャーポジティブやカーボンニュートラルなど環境に関する世界的な潮流
- ②社会資本整備やまちづくり等におけるグリーンインフラへの期待
- ③SDGsやWell-being等新たな社会像の実現に向けたグリーンインフラへの期待

（２）大田区が目指すみどりのまちづくりの将来像

グリーンプランは、基本理念に基づき、みどり豊かな潤いのあるまちのあるべき姿として3つの将来像を定め、目指すみどりのまちの実現に向けて取り組んでいます。

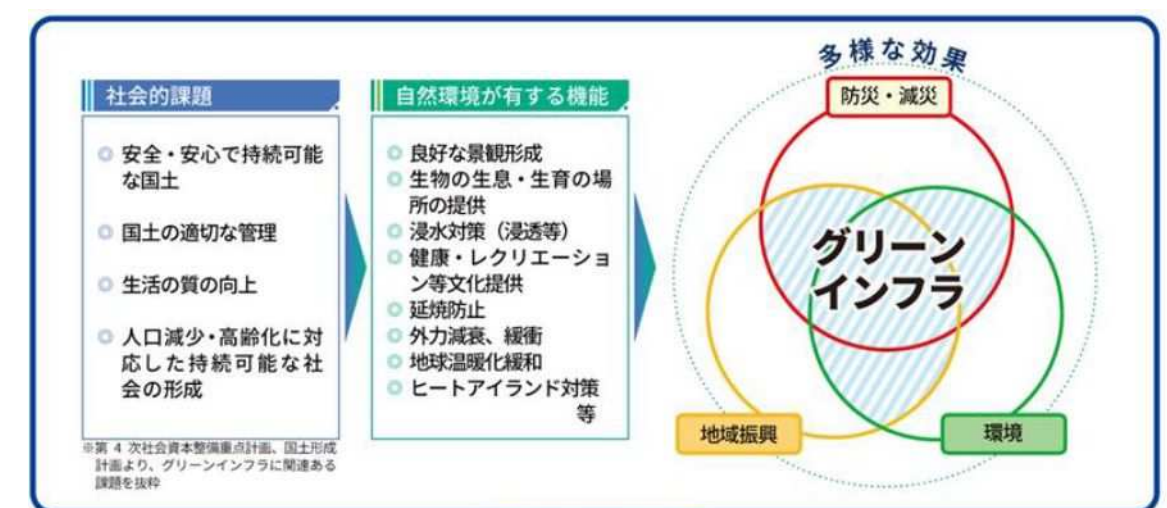
グリーンプランの将来像

- ◆こころ豊かに住み続けられる「みどりあふれるまち」
- ◆多様なみどりが広がる世界に向けた「おもてなしのまち」
- ◆みどりがつながる「地球にやさしいまち」



■ 課題解決に向けたグリーンインフラの視点

自然環境への配慮を行い、巧みに関与、デザインすることで、自然環境が有する多様な効果を発揮させ、様々な地域課題に対応します。



- 防災・減災や地域振興、生物生息空間の場の提供への貢献等、地域課題への対応

- 持続可能な社会、自然共生社会、国土の適切な管理、質の高いインフラ投資への貢献

みどりのまちづくりにおけるグリーンインフラ視点の課題

防災・減災

【課題】

- みどり空間を活用した内水氾濫の軽減
- 内水氾濫等に対する防災・減災意識の向上



環境

【課題】

- 暑熱環境の改善に寄与するみどりの創出
- 快適な住環境の創出につながる質の高いみどりの創出



地域振興

【課題】

- にぎわい空間の創出
- 身近なみどりによる景観形成

グリーンインフラの推進に向けた方向性

大田区におけるグリーンインフラ推進方針の考え方

- ①自然環境が有する多機能性を十分に発揮させる
- ②分野横断の視点を加味し更なる効果を引き出す
- ③多様な主体と連携しグリーンインフラを使いこなす

グリーンインフラ推進方針

グリーンインフラの導入は、「**防災・減災**」、「**環境**」、「**地域振興**」の3つの視点から多様な効果が期待されます。

自然環境が有する機能を活用することで、単独の効果を促すだけでなく、複合的な効果を誘導し、地域が抱える様々な課題解決につなげていきます。

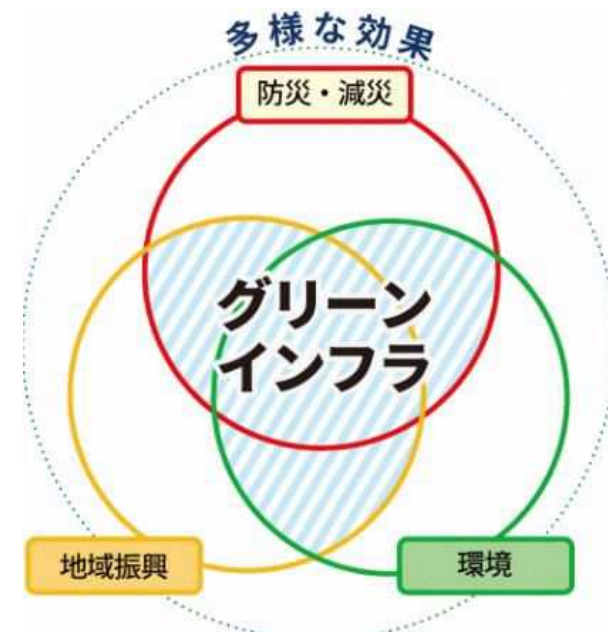


図 グリーンインフラの効果

防災・減災

- ① 内水氾濫による浸水防止、外水による河川氾濫を抑制する雨水流出抑制を図るための、公園・緑地、道路空間における雨水貯留・浸透機能の確保

環境

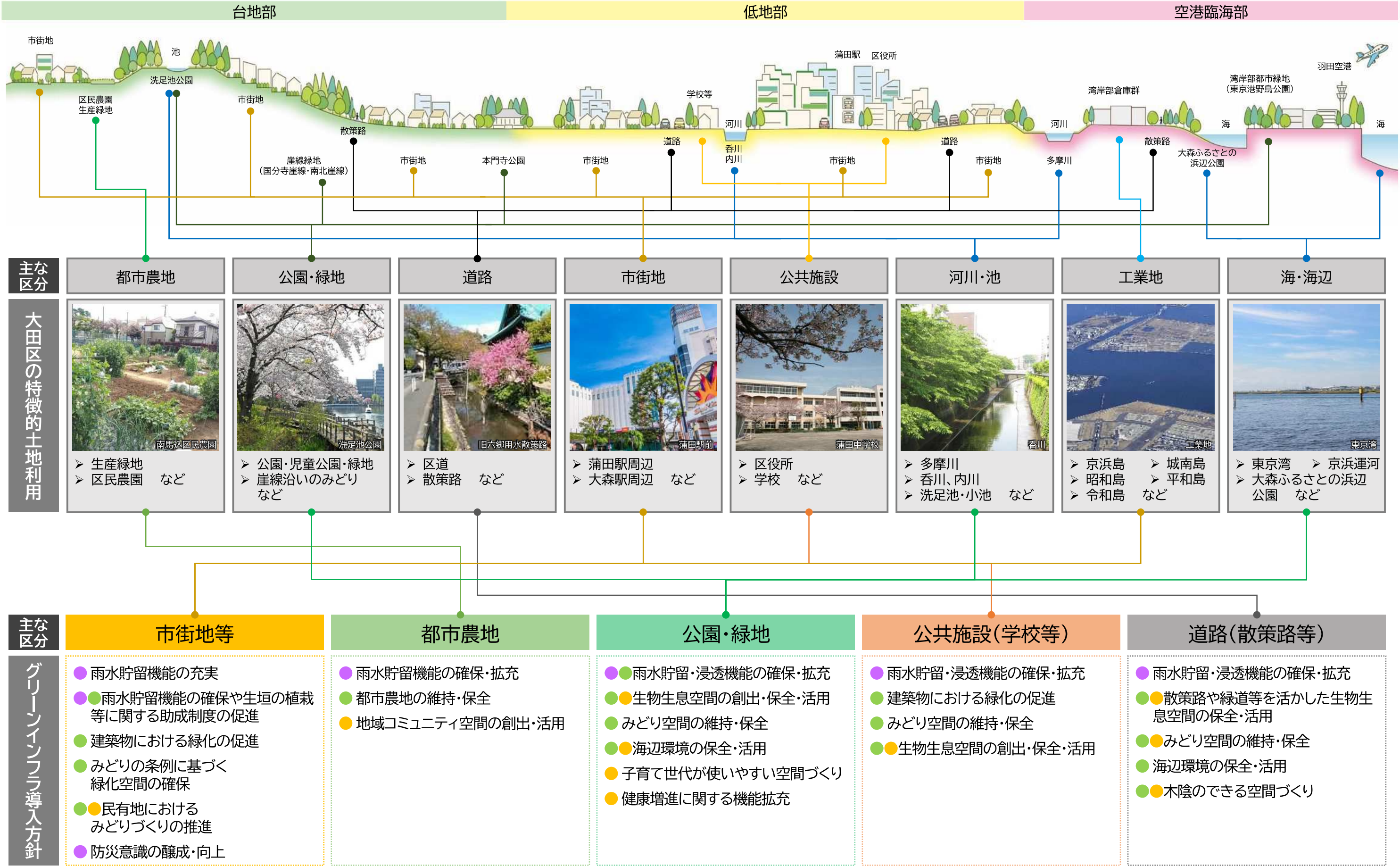
- ① 市街地における屋外での快適な活動を行うことのできるみどりを活かした暑熱環境の緩和
- ② 豊かな生態系の保全・育成する拠点となるみどりの確保、拠点となるみどりのネットワーク形成
- ③ 居心地のよい都市空間を形成するみどりの創出

地域振興

- ① 都市拠点における公民連携によるにぎわい形成に寄与するみどりの創出
- ② 駅周辺をはじめとする空間の魅力や、観光拠点としての風格を高めるみどりの創出による街の付加価値の向上
- ③ 区民にとっての憩いと交流の場となる公民連携による快適なオープンスペースの形成と維持管理

類型別グリーンインフラ導入方針

大田区の地形は、グリーンプランにおいて、台地部、低地部、空港臨海部に大別しています。
また、特徴的な地形や用途に応じて土地利用を分類し、公園・緑地や市街地等の各区分に応じたグリーンインフラ導入方針を示しました。



グリーンインフラ推進に向けた目標

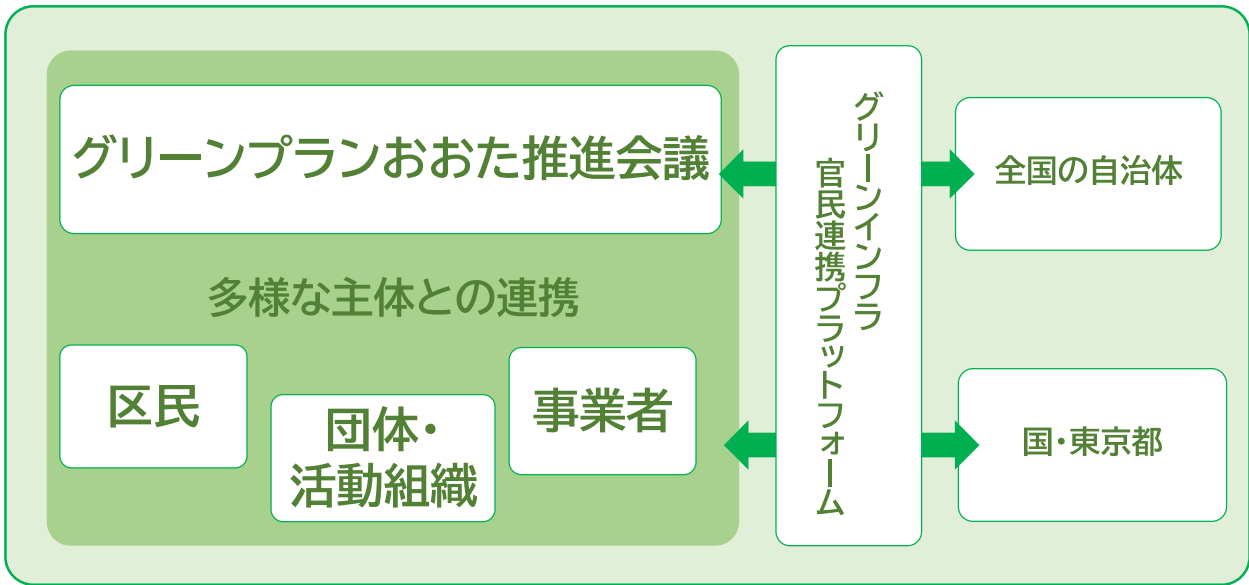
「防災・減災」「環境」「地域振興」の視点からグリーンインフラを推進するための目標を設定します。

防災・減災	目標推進	<u>民地・公共施設における雨水の一時貯留</u> ≪目標値≫ 各敷地を対象に、グリーンインフラ機能による降雨5.5mm/h分の雨水貯留・浸透量の確保を目指す。
	目標推進	<u>緑の多さの満足度の向上</u> ≪目標値≫ 区民による“緑の多さ”に関する満足度について、70%を目指す。
	目標推進	<u>みどり空間の維持管理による避暑機能の充実</u> ≪目標値≫ グリーンプランで示す9つのみどりの拠点について、木陰等における体感温度－7℃を目指す。
環境	目標推進	<u>生物生息空間の保全・創出</u> ≪目標値≫ 公共施設における生物生息空間(公園・緑地、学校のビオトープ等)の箇所数を基準値として、それらの保全・創出を目指す。
	目標推進	<u>大田区への定住意向の確保</u> ≪目標値≫ 区民による“定住意向”について、85%を維持・向上する。
地域振興	目標推進	<u>住んでいる街の魅力度の確保</u> ≪目標値≫ 区民による“住んでいる街の魅力度”について、70%を維持・向上する。

グリーンインフラ事業計画の推進に向けて

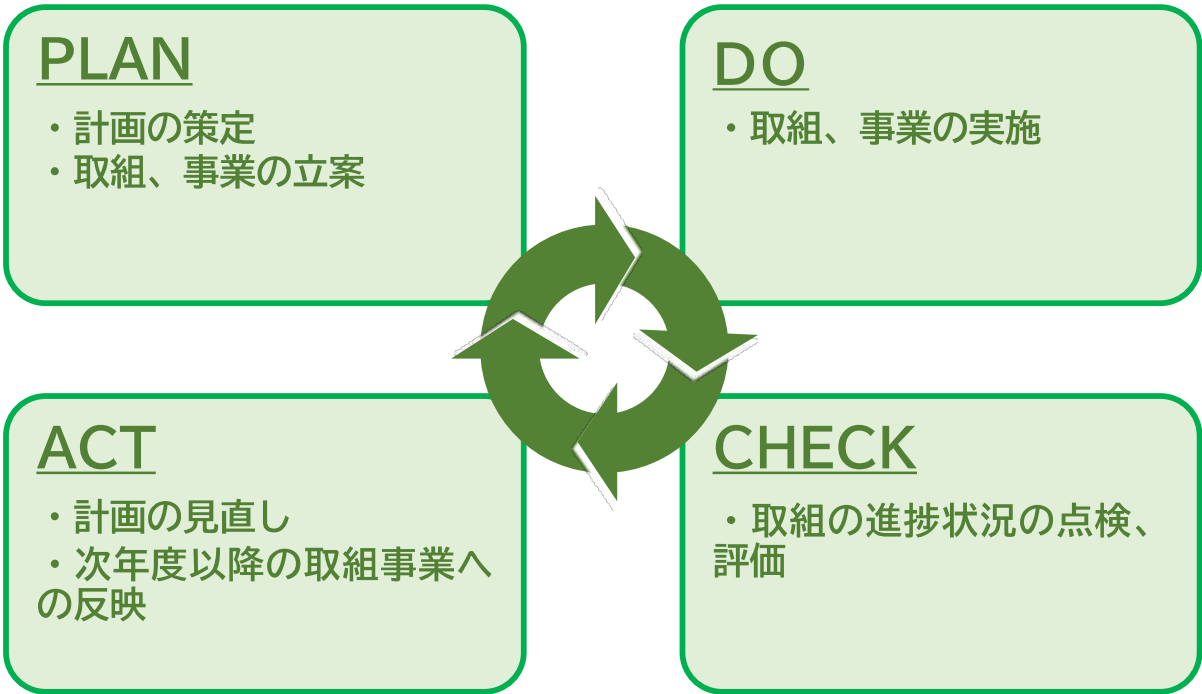
■グリーンインフラの推進体制について

当計画に基づく取組を総合的かつ計画的に推進していくため、グリーンプランおおた推進会議を中心、各関係部署が連携・協働し全庁的に取り組みます。



■グリーンインフラ事業計画の見直しについて

各年度の取組の点検・評価と、計画期間における改定・見直しを図るため、P D C A サイクル（Plan＝計画、Do＝実行、Check＝点検・評価、Act＝見直し）による進捗管理を行い、当計画をより実効性の高いものとします。



大田区グリーンインフラ事業計画

Green infrastructure



Plateau area



Lowland area



Airport waterfront area

令和7年3月
大田区

目 次

第1章	大田区グリーンインフラ事業計画について	1
1	グリーンインフラとは	1
2	グリーンインフラが求められる背景と意義	2
3	計画の位置づけ	3
4	計画の目標年次	3
5	計画の構成	4
第2章	みどりのまちづくりの課題とグリーンインフラ	5
1	大田区を取り巻く動向	5
	（1）社会的動向	5
	（2）大田区が目指すみどりのまちづくりの将来像	7
2	課題解決に向けたグリーンインフラの視点	8
	（1）「防災・減災」「環境」「地域振興」の各視点からみる大田区の姿	8
	（2）視点毎に解決すべき課題	10
第3章	グリーンインフラの推進に向けた方向性	13
1	大田区におけるグリーンインフラ推進方針の考え方	13
2	グリーンインフラ推進方針	14
3	グリーンインフラの導入によるSDGsへの貢献	17
	（1）SDGsとは	17
	（2）グリーンインフラの導入とSDGsへの貢献	17
第4章	類型別グリーンインフラ導入方針	19
1	大田区らしいグリーンインフラ導入の考え方	19
2	類型別グリーンインフラ導入方針	20
	（1）類型別グリーンインフラ導入方針	20
	（2）本計画におけるグリーンインフラ導入方針の全体像（イメージ）	30
3	グリーンインフラの取組展開	31
	（1）グリーンインフラの取組展開について	31
	（2）類型別のグリーンインフラの展開	31
	（3）類型別のグリーンインフラ導入計画	36
第5章	グリーンインフラ推進に向けた目標と評価方法	45
1	推進目標	45
2	グリーンインフラの評価方法の例	48
第6章	グリーンインフラ事業計画の推進に向けて	51
1	グリーンインフラの推進体制について	51
2	計画の見直しについて	52
資料編		
	用語解説一覧	53

2 グリーンインフラが求められる背景と意義

地球環境問題への対応、持続可能な社会の構築が国の内外を問わず大きな課題となっており、まちづくりにおいても、SDGs 達成への寄与、気候変動への適応、みどり豊かな都心や住環境づくりを通じた交流人口の増加と定住促進、再開発等の民間投資の拡大、生物多様性の保全など、環境と経済の好循環を生み出し、活力ある持続可能な社会の構築が重視されています。

こうした視点から大田区のまちづくりを点検すると、多摩川や呑川の沿川では、浸水想定区域が示されるだけでなく、各地に浸水履歴があり、頻発する集中豪雨に対応した浸水対策が求められます。そのためには、区民の生命、財産を保護することを目的に、強靱で回復しやすい減災都市を目指し、高台まちづくりの推進が必要となっています。

また、まちの魅力のバロメータの1つである緑被率が減少しているエリアが散見され、蒲田駅や大森駅の周辺エリアではヒートアイランド現象も懸念され、豊かなみどりの保全・創出を図るとともに、夏季の暑熱緩和に資するまちづくりを進めることも求められています。

一方、本門寺公園、池上梅園、佐伯山緑地、洗足池公園などでは、広がりのあるみどりの中に貴重な歴史・文化資源が残されており、歴史・文化・みどりの各資源に異なる角度から光をあてて更なる魅力化を図ることや、民有地と公有地の緑の連続性を確保して緑量感ある良好な住環境を創出することも必要です。また、「ウォーカブルシティ」の実現に向けて、商業・オフィス施設が集積する都心のオープンスペースや、シンボルとなる道路空間において、公民連携による空間快適性を高める良好なみどりを確保することも必要です。

さらに、生物多様性に関する新たな国家目標である「30by30」を踏まえ、「水と緑のネットワーク」の充実を図るべく、既存の公園・緑地、街路樹や河川などを有機的に繋ぐことで、従前にも増して生物多様性の保全に対する取組を強化することも重要です。

このようなまちづくりを巡る諸課題については、グリーンインフラの導入を通じて、自然環境が有する多機能性を発揮させることでより良い解決策を得ることができる可能性があります。特に、多様な主体の連携を図ることや、分野横断的な視点にも留意しながら取組を進めることで、複数の分野にまたがる地域課題を同時に解決できることが期待されています。

大田区では、グリーンインフラに取り組むことで、まちなかのみどり空間を活用し、複数の地域課題の解決につなげていきます。



グリーンインフラ導入に伴う留意点

- 自然環境が有する多機能性を十分に発揮させるみどりの取組推進
- 公民連携や分野横断の視点を重視して取り組む連携体制の構築

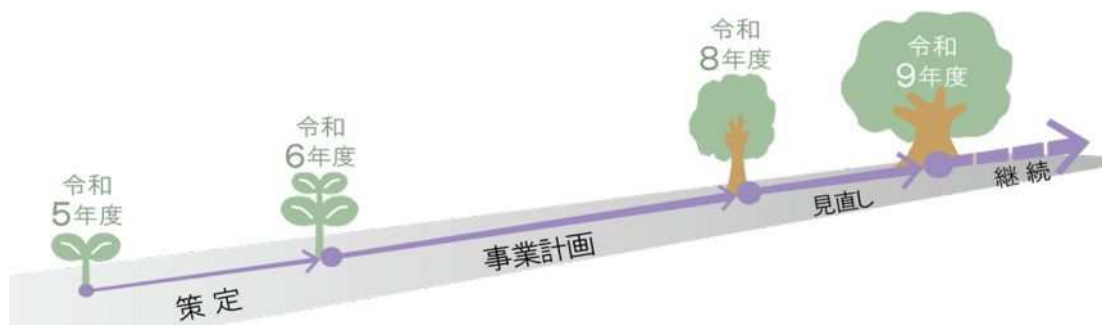
3 計画の位置づけ

大田区グリーンインフラ事業計画は、「大田区基本構想」、「大田区基本計画」及び「大田区都市計画マスタープラン」に則している「大田区緑の基本計画グリーンプランおおた」（以下、グリーンプランという）において、重点的な取組の一つに位置付けられています。



〔グリーンインフラ導入イメージ図〕

大田区のグリーンインフラの取組方針は、「防災・減災」、「環境」及び「地域振興」の視点でまちづくりの動向を把握し、地域課題に対する解決手法としての導入を検討していきます。



〔スケジュール〕

出典：グリーンプラン（令和5年3月改定）P.118 から引用

4 計画の目標年次

大田区グリーンインフラ事業計画は、**令和6年度～令和10年度**を目標年次とした計画です。グリーンプランに基づく計画であることから、グリーンプランの改定及び事業の進捗状況に応じて、適宜見直しを行います。

5 計画の構成

大田区グリーンインフラ事業計画は、以下のように構成しています。

大田区全域を対象に、各所で個別に進められる事業において、順次グリーンインフラの導入を推進していくため、都市施設の類型別及び主な土地利用別に、グリーンインフラ導入のメニューを整理しています。



第2章 みどりのまちづくりの課題とグリーンインフラ

1 大田区を取り巻く動向

(1) 社会的動向

①ネイチャーポジティブやカーボンニュートラルなど環境に関する世界的な潮流

人間の生活は、物質的には豊かで便利なものとなった一方で、人類が生存し続けるための基盤となる地球環境は限界に達しつつあると言われており、生物多様性の喪失や気候変動などの環境関連リスクは、中長期的に見ると世界経済に対する深刻なリスクになるとされています。

こうした中で、世界的に生物多様性や気候変動に関する動きが加速し、ネイチャーポジティブやカーボンニュートラルの実現に向けた取組が大きな潮流となっています。

②社会資本整備やまちづくり等におけるグリーンインフラへの期待

■自然災害の激甚化、頻発化への対応

近年、集中豪雨の発生頻度が増え、大規模な風水害の発生及び土砂災害の発生件数が増加するなど、自然災害が激甚化・頻発化しており、今後は地球温暖化による気候変動の進行により、さらなる被害の増大も懸念されています。自然災害に見舞われた地域においてより良い復興を図ることは、持続可能で活力ある国土づくりを図る上での喫緊の課題であり、グリーンインフラの活用も期待されています。

■インフラの老朽化を踏まえた維持管理への対応

建設後 50 年以上経過する施設の割合が加速度的に上昇するなどインフラの老朽化が進行するなか、インフラの計画的な維持管理・更新や地域のニーズ等に応じた集約・再編の取組が推進されています。このようなインフラの更新や集約・再編時をチャンスと捉え、予防保全型インフラメンテナンスへの転換や新技術の活用などの取組と並行し、グリーンインフラの活用を促進することも重要であるとされています。

■魅力とゆとりある都市・生活空間へのニーズの高まり

グローバル社会における国際的な都市間競争が激しくなる中、クリエイティブ人材を呼び込むためには、都市が備えるべき機能や要素としてグリーンが極めて重要な要素となっており、都市空間でのグリーンの導入が一層求められています。

また、コロナ禍を契機に、人々の求める生活スタイルが変化し、ゆとりある空間や自然環境へのニーズの高まりも見られており、人と自然の適切な距離を確保しつつ、自然を活用して多様な社会課題の解決を図るグリーンインフラの取組が求められています。

③SDGs や Well-being 等新たな社会像の実現に向けたグリーンインフラへの期待

■SDGs の実現に向けた意識の高まり

グリーンインフラの取組は、誰一人取り残さないという持続可能な開発目標（SDGs）実現の基盤となるものです。SDGs の 17 の目標は「経済」「社会」「自然資本」の3層に分類でき、「経済」は「社会」に、「社会」は「自然資本」に支えられて成り立つと言われています。この自然資本をグリーンインフラによって回復させることが、SDGs を達成し持続可能な社会を構築する上で重要な役割を果たすと考えられます。大田区は、SDGs の達成に向けて優れた取組を提案する都市として、内閣府から 2023 年度の「SDGs 未来都市」に選定され、持続可能なまちづくりに向けて各種施策を展開しています。

〔持続可能な開発目標SDGs〕



■Well-being、ワンヘルス、こどもまんなか社会、DX 等の実現

価値観の多様化、働き方改革の推進等のなかで、Well-being 向上へのニーズが高まっています。また、人々の健康には地域が健康であることが必要であり、そのためには、地球環境や生態系が健全でなければならない、すなわち、人・動物の健康と環境の健全性は、生態系のなかで相互に密接につながり、強く影響し合う一つのものであるという「ワンヘルス」(One Health) の考え方が注目されています。

さらに、「こどもまんなか社会」の実現に向けて、次の世代を担う子どもたちの健全な成長のため、豊かな自然に接し学ぶ機会を提供することが求められています。教育の場としてや心身の安らぎの場としてもニーズが高まり、加えて、デジタル庁の創設やデジタル田園都市国家構想の推進等により我が国のDXが進むなかで、併せてリアルの世界の重要性の認識も高まりを見せており、究極のリアルとも言えるみどりについて改めて注目されてきています。

（２）大田区が目指すみどりのまちづくりの将来像

グリーンプランでは、基本理念に基づき、みどり豊かな潤いのあるまちのあるべき姿として３つの将来像を定め、目指すみどりのまちの実現に向けて取り組んでいます。

グリーンプランの将来像

- ◆こころ豊かに住み続けられる
「みどりあふれるまち」
- ◆多様なみどりが広がる世界に
向けた「おもてなしのまち」
- ◆みどりがつながる「地球にやさしいまち」



2 課題解決に向けたグリーンインフラの視点

(1) 「防災・減災」「環境」「地域振興」の各視点からみる大田区の姿

「グリーンインフラ」とは、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用することで、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組です。

このことを踏まえ、自然環境への配慮を行い、巧みに関与、デザインすることで、自然環境が有する多様な効果を発揮させ、様々な地域課題に対応していきます。



ここでは、「防災・減災」「環境」「地域振興」の各視点からみる大田区の姿とまちづくりの課題を整理しています。

防災・減災

大田区をはじめ東京都は、首都直下地震等の地震発生、気候変動に伴う豪雨による被害が懸念されています。こうした被害を抑制すべく、不燃化特区制度を活用した不燃化まちづくりや、防災公園の整備が進められています。

東糀谷防災公園では、都市公園として、レクリエーション機能や、保育園が活用する体験農園、そして糀谷地域の防災性を高めるため、地域防災活動の拠点として整備しています。



▲防災公園として整備された東糀谷防災公園

環境

都市の高密度が進む大田区では、街は人工構造物で覆われ、ヒートアイランド現象が発生しています。悪化する街の暑熱環境は温室効果ガスの発生を助長する一つの原因ともなっています。

呑川緑道では、歩道に木陰が落ちる快適な歩行空間を創出するなど、グリーンプランに基づき、緑豊かで快適な都市形成を推進しています。また、大森ふるさとの浜辺公園では、ブルーカーボンとして海草が大気中のCO₂濃度上昇の抑制に貢献するコアマモの植生実証が先駆的に進められています。



▲コアマモの植生実証が行われている大森ふるさとの浜辺公園

地域振興

大田区内には、洗足池公園や本門寺公園など、歴史と自然環境が調和した公園があり、多くの人々に親しまれています。洗足池公園は、江戸時代から景勝地として名高く、公園内には歴史遺産から自然まで様々なものに親しめます。桜は約200本あり、春には花見の名所としてにぎわっています。

また、蒲田駅や大森駅では、開発事業も計画されており、開発にあわせて自然環境を活用することで、魅力的でにぎわいあるまちづくりが期待されます。



▲花見でにぎわう洗足池公園

(2) 視点毎に解決すべき課題

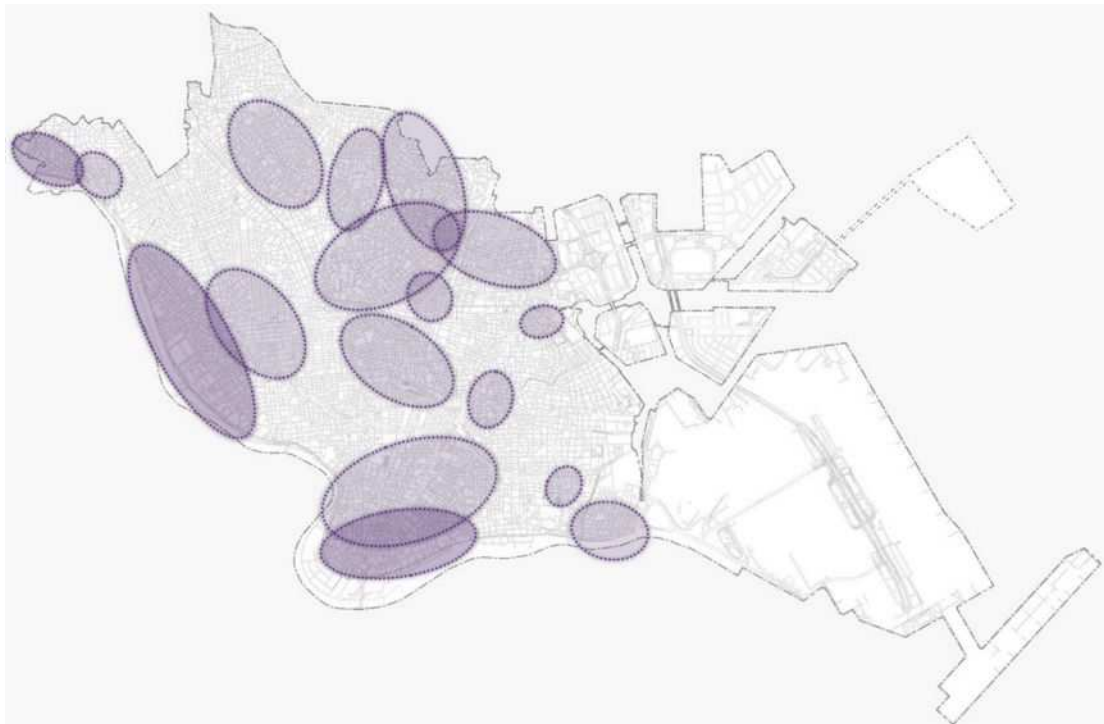
防災・減災

■みどり空間を活用した内水氾濫の軽減

- ・馬込・池上地域等では、道路や小規模河川に沿うように浸水実績があります。こうした地域では、豪雨時における雨水の一時貯留や雨水の流出の抑制によって、内水氾濫を軽減することも期待でき、既存の公園・緑地の適切な保全及び民有地等の雨水一時貯留・流出抑制機能の付与に積極的に取り組む必要があります。

■内水氾濫等に対する防災・減災意識の向上

- ・多摩川沿いのエリアでは、いくつかのエリアにおいて浸水深3 m以上の浸水の懸念があります。多摩川沿いには多くの公園・緑地が確保されていますが、都内でも水量の多い多摩川においては、堤外地の緑地による洪水被害を抑制する水の貯留効果は期待できません。このため、堤内地における既存公園の再整備による身近な避難場所となる高台の確保、堤防への緑化等により越流水の流れを緩和させるなどの堤防強化を図ることで、洪水被害を緩和させる取組を進める必要があります。
- ・大田区の臨海部は、高潮による面的な浸水も懸念されます。身近な避難場所となる高台の確保のための既存公園の再整備など、浸水時における一時避難のための取組が必要です。



[防災・減災の視点にみる課題位置図]

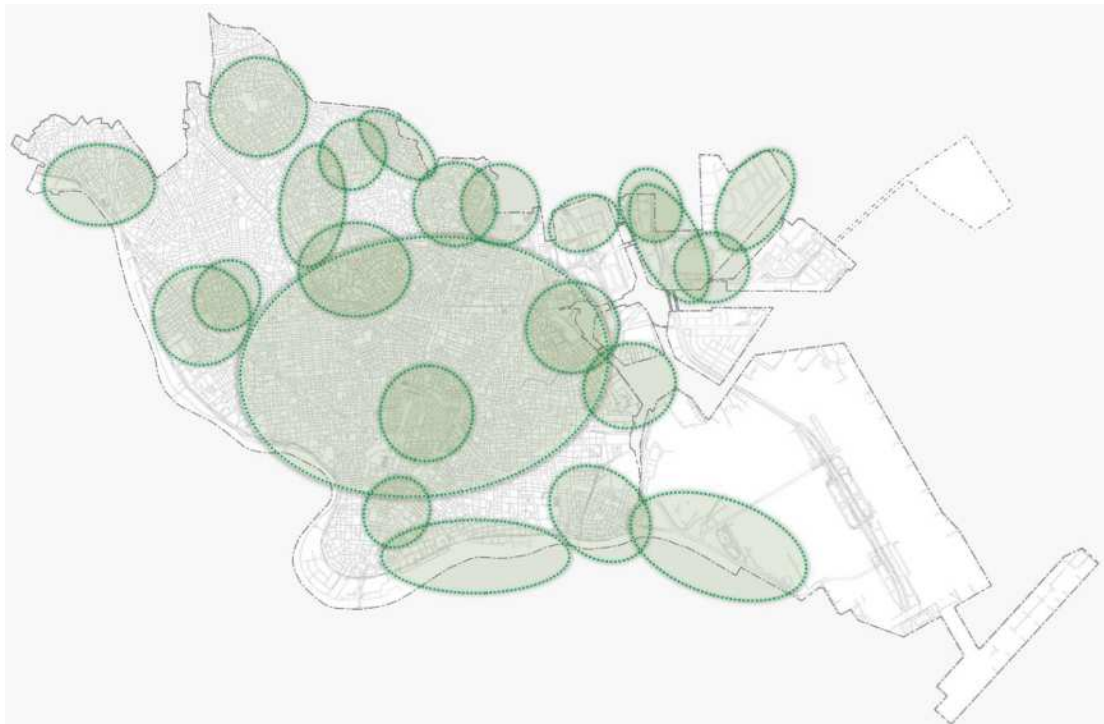
環 境

■暑熱環境の改善に寄与するみどりの創出

- ・蒲田駅を中心とする市街地においては、都市の高密度化が進んでおり、緑被率が低い傾向にあります。こうした地域では、人工被覆面が多く、夏季には熱中症のリスクがあります。また、まとまった緑地がないことも、都市の暑熱環境の悪化を助長しています。一方で、大田区ではみどりの保全と創出を通じて、住みやすい魅力的なまちづくりを目指しています。
- ・このことを踏まえ、民間開発にあわせた小規模緑地の確保、歩道空間における木陰のできるみどりの配置などにより、みどりによる景観的な魅力だけでなく、過ごしやすい環境への改善に寄与するみどりの創出が必要です。

■快適な住環境の創出につながる質の高いみどりの創出

- ・市街地では都市の高密度化が進み緑被率が低く、台地部地域では緑地が減少傾向にあります。一方で、緑地が増加している地域もありますが、こうした地域は、いずれも河川沿い、湾岸沿いのエリアであり、人々の活動空間における緑地の増加は見られません。
- ・日本最大の国際空港を有し、開発ポテンシャルの高い大田区では、新たにまとまったみどりを市街地部へ確保することは困難ではあるものの、公民連携のもとで質の高いみどりを確保することで、都市の魅力を高め、快適な住環境の創出に寄与していくことが必要です。



[環境の視点にみる課題位置図]

地域振興

■にぎわい空間の創出

- ・大田区では、蒲田駅・大森駅等の主要駅を中心としたまちづくりが進められています。特に都市計画マスタープランの都市拠点に位置づけられている地区では、高密な市街地が形成され、みどりの創出が難しいと考えられますが、再開発事業・都市基盤整備事業によって、インフラの再整備が予定されており、これを契機とした区民・事業者・行政の取組、公民連携による取組が必要です。

■身近なみどりによる景観形成

- ・各地域でまちづくり、観光、環境に関わる 100 以上の区民団体が活動しています。グリーンインフラは、自然環境を活かした成長するインフラであり、日常的な維持管理が求められ、こうした区民団体との連携によるみどりの維持管理を継続的に実施するための取組が必要です。



〔地域振興の視点にみる課題位置図〕

第3章 グリーンインフラの推進に向けた方向性

1 大田区におけるグリーンインフラ推進方針の考え方

様々な地域課題に対応した取組の立案時において、グリーンインフラの多機能性を発揮させる観点から、その導入の可能性を探ることで、複数の地域課題の同時解決を目指すとともに、より幅広い効果を得ることを目指します。

グリーンインフラの多機能性が発揮されるとされる「防災・減災」、「環境」、「地域振興」の3つの視点及びグリーンインフラに取り組む各主体が目指すべきアウトカム（成果目標）の実現可能性を考慮し、グリーンインフラ推進方針の考え方を以下に示しています。

①自然環境が有する多機能性を十分に発揮させる

グリーンインフラを構成する自然環境（緑地、樹木、植栽、河川、水辺、森林、農地等）は、動植物の生息環境の提供、雨水貯留・浸透による防災・減災、水質浄化、水源涵養（水循環）、植物の蒸発散機能を通じた気温上昇の抑制、良好な景観形成、農作物の生産、土壌の創出・保全など多様な機能を有します。

このため、多様な機能をインフラ整備に反映させ、地域で循環可能な自然資源は地域で循環させることにより、取組自体の効果を最大限に高め、さらに派生的な効果の発現を促していきます。

②分野横断の視点を加味し更なる効果を引き出す

例えば、雨水貯留浸透施設を既存の公園・緑地で整備する際、Well-being（健康、幸福感）にも寄与させるために、どのような雨庭（レインガーデン）にすべきかを、各部局が連携して知恵を絞ることで、ベストプラクティス（最良の取組のあり方）を探ることなどが考えられます。

同様に、児童・生徒の環境教育の場として活用する場合は、教育担当セクションとの連携が想定されるなど、異なる分野の取組を相互に関連づけて検討することで更なる効果を引き出していきます。

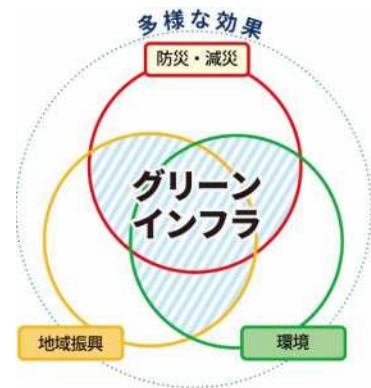
③多様な主体と連携しグリーンインフラを使いこなす

グリーンインフラは、公園・緑地、街路樹、水辺の維持管理や、農作業の体験、環境教育、各種イベント、心身リフレッシュのためのレクリエーションや健康増進等、多様な活動が行われる場となります。

個別の施設にとどまらず、各種民間団体や事業者を含む多様な主体と連携し、エリア全体の資源や空間を使いこなすことで、より効果的・多面的に機能が発揮される可能性があるほか、グリーンインフラが「成長する」又は「育てる」インフラである点に鑑み、多様な主体による継続的参画が不可欠であるため、グリーンインフラへの取組を企画・計画する段階から、多様な主体の連携を促す方策を展開します。

2 グリーンインフラ推進方針

グリーンインフラの導入は、「防災・減災」、「環境」、「地域振興」の3つの視点から多様な効果が期待されます。公共空間、民有空間において自然環境が有する機能を利活用したみどり空間を保全・育成・創出していくことで、単独の効果を促すだけでなく、複合的な効果を誘導し、地域が抱える様々な課題解決につなげていきます。



防災・減災

- ① 内水氾濫による浸水防止、外水による河川氾濫を抑制する雨水流出抑制を図るための、公園・緑地、道路空間における雨水貯留・浸透機能の確保



- ① 市街地における屋外での快適な活動を行うことのできるみどりを活かした暑熱環境の緩和
- ② 豊かな生態系の保全・育成する拠点となるみどりの確保、拠点となるみどりのネットワーク形成
- ③ 居心地のよい都市空間を形成するみどりの創出



- ① 都市拠点における公民連携によるにぎわい形成に寄与するみどりの創出
- ② 駅周辺をはじめとする空間の魅力や、観光拠点としての風格を高めるみどりの創出による街の付加価値の向上
- ③ 区民にとっての憩いと交流の場となる公民連携による快適なオープンスペースの形成と維持管理



3 グリーンインフラの導入によるSDGsへの貢献

2015年に国連において全会一致で採択された「持続可能な開発目標」に基づき、日本では「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」が示され、令和元年12月に一部改定されました。大田区においてもグリーンインフラの導入を通じて、経済・社会・環境の分野やこれらの分野を横断する課題に関してSDGs達成に向けた取組を推進していく必要があります。

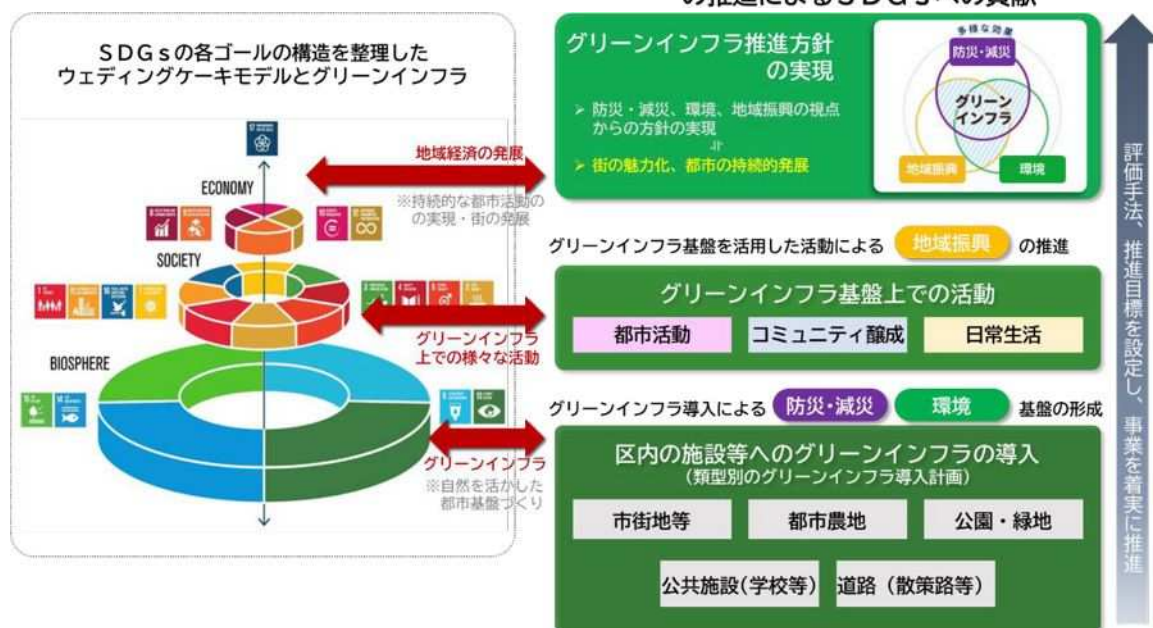
（１）SDGsとは

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは、2015年9月に開催された国連サミットにおいて採択された「2030 アジェンダ」の中核となる、2030年までに達成すべき国際目標です。SDGsは、先進国を含む国際社会共通の目標として、持続可能な世界を実現するための包括的な17の目標・169のターゲットで構成されており、各国政府は「誰一人を取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に、統合的に取り組むこととしています。

（２）グリーンインフラの導入とSDGsへの貢献

SDGsの各ゴールの構造を整理すると、ウェディングケーキモデルのように表現できます。グリーンインフラと関連づけると、海洋資源・陸上資源の確保、そして気候変動に対応した都市基盤は、いわばグリーンインフラと言えます。このグリーンインフラとして整えられた都市基盤上で、自然を活かしながら人々による様々な活動が営まれることで、持続的な都市が形成でき、その都市では健康的な生活を確保することもできます。結果として、経済成長と雇用を生み出し、持続可能な消費と生産が行われる街の創出へとつながります。

大田区においてもこれを実現するため、この大田区グリーンインフラ事業計画を推進し、SDGsの目標への貢献を図ります。



[大田区グリーンインフラ事業計画に関連するSDGsのゴール]



目標3 保健

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

＜グリーンインフラ導入によるSDGsへの貢献＞
 ➡グリーンインフラの導入を通じ、身近な生活空間で常にみどりを感じることでできる空間づくりにより、人々のストレス緩和等による健康づくりを支援します。



目標4 教育

すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

＜グリーンインフラ導入によるSDGsへの貢献＞
 ➡自然が持つ機能を活かした公園・緑地づくりを通じて、環境分野を中心とした学習の場・機会を創出します。



目標9 インフラ、産業化、イノベーション

強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

＜グリーンインフラ導入によるSDGsへの貢献＞
 ➡自然が持つ機能を活かしたインフラづくりによる強靱な都市づくりと、その自然を活かした地域振興を推進します。



目標11 持続可能な都市

包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する

＜グリーンインフラ導入によるSDGsへの貢献＞
 ➡公園や市街地などの雨水浸透・貯留機能を向上させることで、雨水流出を抑制し、内水氾濫を防止します。



目標13 気象変動

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

＜グリーンインフラ導入によるSDGsへの貢献＞
 ➡みどり豊かな公園・緑地、街路樹などの整備により、街の暑熱環境の改善を図り、居心地の良い都市空間を形成します。



目標14 海洋資源

持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

＜グリーンインフラ導入によるSDGsへの貢献＞
 ➡海辺においてブルーカーボン生態系を創出し、海辺の豊かな生態の育成、脱炭素化へ貢献します。



目標15 陸上資源

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

＜グリーンインフラ導入によるSDGsへの貢献＞
 ➡市街地、都市農地、公園・緑地、公共施設、道路等、全ての空間でみどりの保全・創出を行い、豊かな生態系を創出します。



目標16 実施手段

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

＜グリーンインフラ導入によるSDGsへの貢献＞
 ➡グリーンインフラの導入をきっかけに、区民・事業者・NPO団体・区との協働連携による地域づくりを促進します。

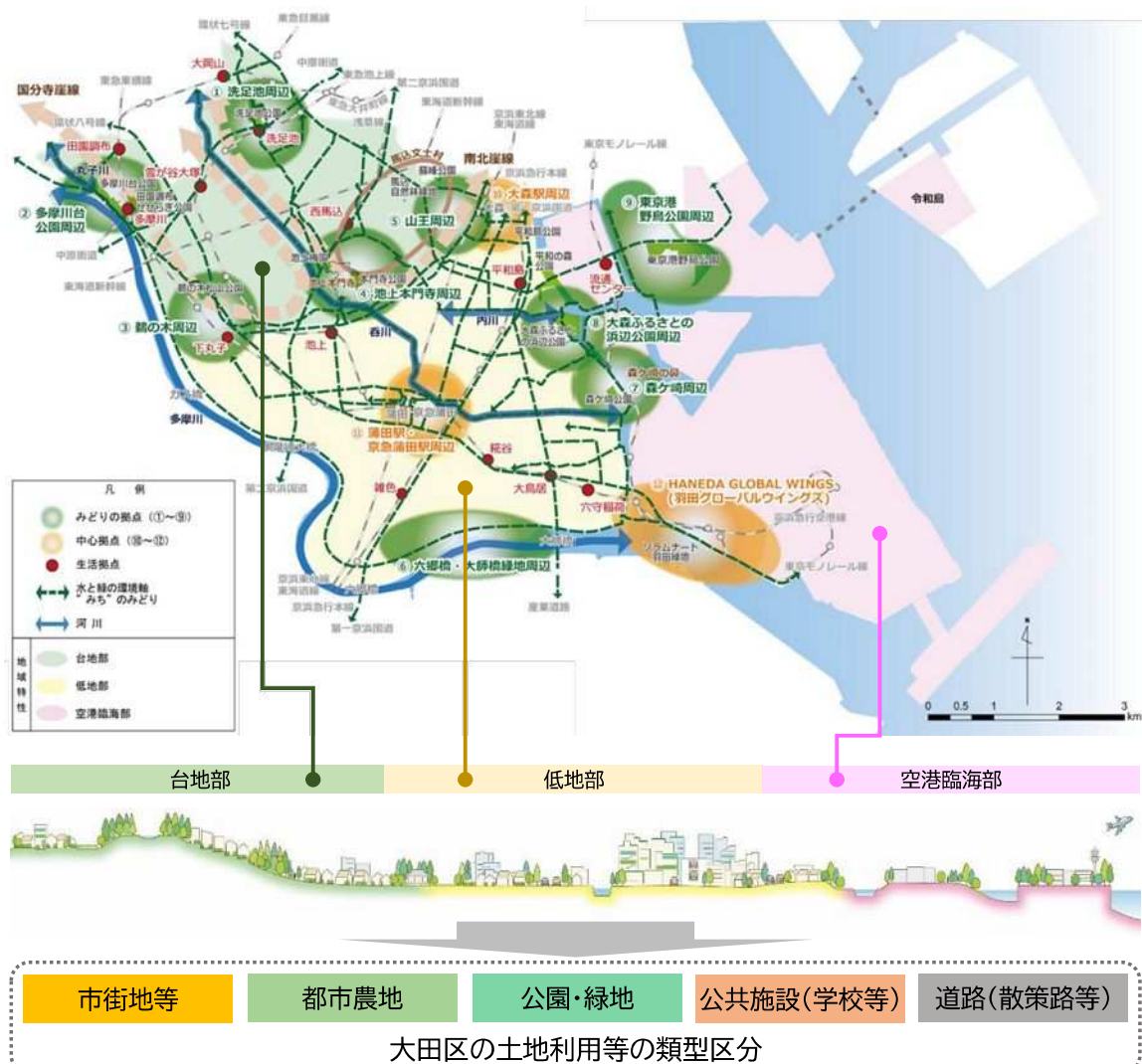
第4章 類型別グリーンインフラ導入方針

1 大田区らしいグリーンインフラ導入の考え方

大田区の地形は、グリーンプランにおいて台地部、低地部、空港臨海部に大別しています。また、特徴的な地形や用途に応じて土地利用を分類し、公園・緑地や市街地等の各区分に応じたグリーンインフラ導入方針を示しました。

みどりのまちづくりの課題を対象としたグリーンインフラの取組導入は、その類型ごとに、複数の効果を発現させることで、様々な課題解決へ繋がります。

また、類型別にグリーンインフラの導入方針を示すことで、効果を明確にし、実効性の高い計画推進を目指します。



〔グリーンプランおおた「大田区らしさを表すみどり」にみる大田区の土地利用等の類型〕

2 類型別グリーンインフラ導入方針

(1) 類型別グリーンインフラ導入方針

市街地等

大田区は、良好な市街地から埋立地の産業系土地利用に至るまで、多様な地域の集合体で形成され、住まいや住環境などに対する様々なニーズがあります。そこで、まちの地域特性に対応しつつ、良好な住環境の形成を進めることが求められます。

市街地については、区内に残る貴重な自然環境に対し、積極的な保全・育成に努めるとともに、防災・減災及び景観形成など多面的な機能の発揮を図ります。また、みどりの機能を活用することで、生活利便性の向上とにぎわいの創出を図り、区民協働によるみどりのまちづくりを進めます。

環境

防災・減災

地域振興

■導入方針

- 雨水貯留機能の充実 ●
- 雨水貯留機能の確保や生垣の植栽等に関する助成制度の促進 ●●
- 建築物における緑化の促進 ●
- みどりの条例に基づく緑化空間の確保 ●
- 民有地におけるみどりづくりの推進 ●●
- 防災意識の醸成・向上 ●



▲オープンガーデンのイメージ



▲雨水タンクの設置イメージ

導入効果（期待される効果）

- 防災・減災 雨水の一時貯留による内水氾濫の抑制・防止
- 環境 脱炭素化への貢献
- 地域振興 魅力的な街並み景観の形成

コラム～市街地でのグリーンインフラ～

■宅地内への雨庭づくり

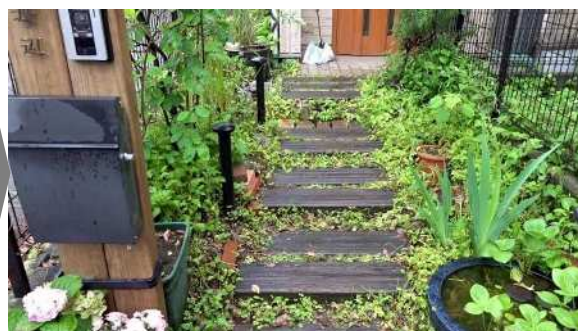
- ・内水氾濫が懸念される市街地では、宅地からの雨水の流出を抑制し、水路や下水道への雨水流入を軽減することを目的に戸建住宅での雨庭づくりが期待されます。



▲杉並区の宅地内の雨庭【出典：NHK Web サイト】



▲杉並区の宅地内の雨庭【出典：NHK Web サイト】



■区の補助・助成制度

雨水タンク設置助成制度

<助成対象区域>

- ・大田区内全域

<助成対象者>

- ・大田区内に雨水タンクを設置し、使用する方。

<助成金の種類及び助成金額>

助成金の交付は、(1) または (2) のいずれか一方のみ。

- (1) 大型雨水タンク（有効貯水量 1 基当たり 500 リットル以上）設置助成金
本体価格・設置工事・ポンプ等設備の設置工事、諸費用の税込み合計額の 1/2。助成限度額は 30 万円迄。
- (2) 小型雨水タンク（有効貯水量 1 基当たり 500 リットル未満）設置助成金
本体価格・設置工事・ポンプ等設備の設置工事、諸費用の税込み合計額の 2/3（個人）または 1/2（その他）。敷地につき 2 基まで助成可能。助成限度額は 1 基につき 4 万円迄。

植栽帯造成助成制度

<助成対象者>

- ・助成を受けることができる方は、植栽帯を造成する土地の所有者又は管理者

<助成対象となる植栽帯>

- (1) 接道部の緑の無い場所に新たに造成する植栽帯もしくは既存のブロック塀等を取り壊して造成する植栽帯が対象。
- (2) 植栽帯の要件<以下要件を全て満たす>
 - ・道路と敷地との道路境界線上に 2 メートル以上接していること。
 - ・道路境界線から奥行き 5 メートル以下の範囲内に、面積 1 平方メートル以上（縁石等を含む）の植栽帯を造成すること。
 - ・縁石等を設置する場合の高さは道路面から 60 センチメートル以下で、道路と植栽帯の間に遮へい物が無いこと。
 - ・植栽帯の範囲がわかるようにすること。
 - ・造成する植栽帯が建築基準法第 42 条に規定する道路及び大田区管理道路に接していること。

都市農地

都市農業の持続的な振興に資する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本計画である「都市農業振興基本計画（平成 28 年）」において、都市農地は宅地化すべきものから都市にあるべきものとして方針転換されました。また、グリーンプランでは、区内に残るみどりを守るために、農風景を将来に引き継いでいくことを“おおた”のみどり方針にて示しています。

区内には、区民農園や生産緑地が点在しており、農風景の保全や地域コミュニティの場としての役割に加えて、場所によっては防災・減災に資する機能の充実が求められます。

環境

防災・減災

地域振興

■導入方針

- 雨水貯留機能の確保・拡充 ●
- 都市農地の維持・保全 ●
- 地域コミュニティ空間の創出・活用 ●



▲生産緑地（馬込シクラメン園）



▲南馬込区民農園

〔出典：NPO 法人大田・花とみどりのまちづくり
WEB サイト〕

導入効果（期待される効果）

防災・減災

雨水の一時貯留による内水氾濫の抑制・防止

環境

みどり空間の保全

地域振興

地域コミュニティの形成

地域振興

農業体験ができる場の提供

コラム～都市農地でのグリーンインフラ～

■雨水の貯留及び浸透機能の維持

- ・樹皮をマルチングとして再利用することで、雨水を貯留及び浸透させ流出抑制効果を得ることができます。
- ・地表面のクッション性を向上させ、安全な利用を促進することができます。



▲ウッドチップの園路 [出典：GreenSnap Web サイト]

■区民農園による“にぎわいの場”の創出

- ・土とのふれあいの場となる区民農園は、地域住民におけるにぎわいの場となるとともに、パーゴラやベンチ等を設置することで、利用者同士の地域コミュニティの醸成に寄与します。



▲南馬込区民農園

■ワイルドフラワーによる植栽

- ・道路境界等ではワイルドフラワー花壇を設置することにより、まちに華やかな景観を形成します。



▲ワイルドフラワー
[出典：大阪府 Web サイト]

公園・緑地

公園・緑地は、環境保全、レクリエーション、防災・減災及び景観形成の4つの役割を有しており、良好な住環境を構成し、区民が健康で文化的な生活を送るうえで重要な拠点となります。また、貴重なみどりを感じることができる空間であるとともに、脱炭素化の実現やヒートアイランド現象の緩和などのまちづくりに関する課題を解決するための役割を担っています。

大田区を地形から見ると、武蔵野台地東端にあたる国分寺崖線及び南北崖線がまとまりのある緑の帯を形成しています。一方で、斜面地に緑地が点在することから、土砂災害警戒区域に指定されている場所もあり、緑地として適切に保全することが求められます。

そこで、多様な機能を持つ水とみどりをグリーンインフラとして活用し、持続可能で魅力あるまちづくりに繋がります。

環境

防災・減災

地域振興

■導入方針

- 雨水貯留・浸透機能の確保・拡充 ●●
- 生物生息空間の創出・保全・活用 ●●
- みどり空間の維持・保全 ●
- 海辺環境の保全・活用 ●●
- 子育て世代が使いやすい空間づくり ●
- 健康増進に関する機能拡充 ●



大田区立東糺谷防災公園・ビオトープ

導入効果（期待される効果）

- 防災・減災 雨水の一時貯留による内水氾濫の抑制・防止
- 環境 暑熱環境の改善
- 環境 生物多様性の保全や環境に対する意識の向上
- 地域振興 区民ニーズに沿った公園づくり
- 地域振興 レクリエーションの場の創出や地域コミュニティの形成

コラム～公園・緑地でのグリーンインフラ～

■雨水貯留施設の整備、雨水貯留機能・雨水浸透機能を持つ植栽帯等の整備

- ・公園の地下貯留槽や浸透ますを埋設し、大量の雨水を貯留・浸透できる貯留槽を整備。
- ・周辺市街地からの雨水を取り込み一時的に公園内に貯留することで、周辺小規模河川への流出を抑制し、内水氾濫を防止できます。

二子玉川公園の地下に埋設されている
雨水貯留槽 ▶



■木陰のできる樹木の維持管理、水の蒸発散機能をもつ空間の整備

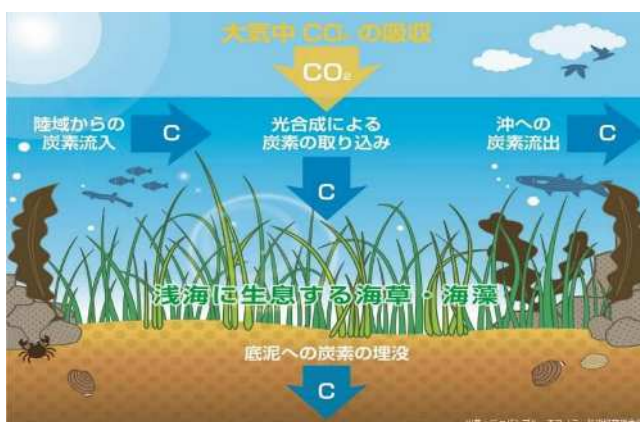
- ・木陰のできる樹木の維持管理とともに、人々の憩いの空間を整備しています。
- ・雨の日には舗装の中の微細な隙間に雨水を蓄え、晴れた日には蓄えられた水分が徐々に蒸発することで、気化熱により道路の表面温度を低下させる、打ち水の原理を応用した舗装を整備

グランモール公園（横浜市）▶
[出典：国土交通省資料]



■ブルーカーボン生態系

- ・2009年に国連環境計画の報告書において、海洋生態系に取り込まれた炭素が「ブルーカーボン」と命名され、地球温暖化対策としての吸収源の新しい選択肢として提示されたことで、世界的に注目されています。
- ・ブルーカーボンを隔離・貯留する海洋生態系として、海草藻場、海藻藻場、湿地・干潟、マングローブ林が挙げられ、これらは「ブルーカーボン生態系」と呼ばれています。大森ふるさとの浜辺公園にて実証実験が行われている「コアマモ移植実験」において用いられているコアマモは海草にあたり、ブルーカーボンとなり、脱炭素化にも貢献します。



▲ブルーカーボンのメカニズム（国土交通省資料）

公共施設（学校等）

区役所や学校等の公共施設は、多様な機能を担うことができる空間であり、防災・減災、環境及び地域振興の視点からまちづくりに関する課題へ適切に対応していく必要があります。

また、学校施設は、沿道緑化、校庭の芝生化及び建築物の緑化等に加え、公共建築物等の特性を踏まえた内装等の木質化を行っています。

そこで、空間を巧みに活用したグリーンインフラの取組を組み込み、持続可能で魅力あるまちづくりに繋がります。

環境

防災・減災

地域振興

■導入方針

- 雨水貯留・浸透機能の確保・拡充 ●
- 建築物における緑化の促進 ●
- みどり空間の維持・保全 ●
- 生物生息空間の創出・
保全・活用 ●●



矢口自然農園（矢口小学校）



昇降口付近での雨水タンクの設置例（茅ヶ崎市）

導入効果（期待される効果）

防災・減災

雨水の一時貯留による内水氾濫の抑制・防止

環境

暑熱環境の改善

環境

生物多様性の保全・創出

地域振興

環境教育の充実

コラム～公共施設（学校等）でのグリーンインフラ～

■学校内中庭へのビオトープの設置

- ・中庭を活用したビオトープを設置することで、環境教育の場としても活用し、児童・生徒の環境に対する意識の醸成を図ることができます。

ビオトープ ▶
[出典：エコシティたかつ Web サイト]



■外構部の緑化

- ・学校等、公共施設の外構部に十分な空間がない場合は、外構部への透過性の高いフェンスの設置、つる性植物の植栽を行うことで、開放的でうまいのある景観を形成することができます。

フェンスを用いた緑化 ▶
[出典：クローバーガーデン Web サイト]



■環境教育の実施

- ・グリーンインフラの取組について、わかりやすく明示することで児童・生徒の環境教育の場としても活用し、環境に対する意識の醸成を図ることができます。



八王子市立式分方小学校での取組 ▶
[出典：環境省グッドライフアワード Web サイト]

道路（散策路等）

みどりの機能を高めていくためには、拠点となる公園・緑地の整備等とともに、道路、広場及び散策路等を活用したみどりのネットワークの拡充が重要となります。

散策路は、区民の移動経路であると同時に街路樹や植栽等の身近なみどりを感じることができます。また、自然や歴史・文化などの魅力的な資源を活かすとともに、サードプレイスや健康増進の場として重要となります。

今後は、気候変動に伴う雨水対策や暑熱環境の改善等に向けて、グリーンインフラの取組を導入することで、持続可能で魅力あるまちづくりに繋がります。

環境

防災・減災

地域振興

■導入方針

- 雨水貯留・浸透機能の確保・拡充 ●
- 散策路や緑道等を活かした生物生息空間の保全・活用 ●●
- みどり空間の維持・保全 ●●
- 海辺環境の保全・活用 ●
- 木陰のできる空間づくり ●●



▲緑溝（バイオスウェイル）（ポートランド 米国）
[出典：グリーンインフラ総研]



▲木陰のある道路

導入効果（期待される効果）

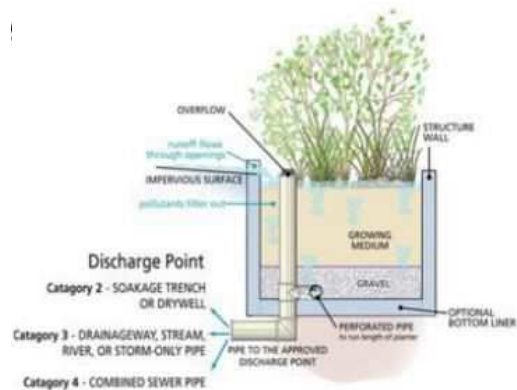
- 防災・減災 雨水の一時貯留による内水氾濫の抑制・防止
- 環境 木陰の創出による快適な空間形成
- 環境 暑熱環境の改善
- 環境 生物多様性の保全・創出
- 地域振興 魅力的な街並み景観の形成

コラム～道路（散策路等）でのグリーンインフラ～

■緑溝（バイোসウェイル）の整備

- ・車道等の路面表流水を歩車道境界に設置された浸透性のある植栽帯に集水し、地下へ浸透させることで、下水道への雨水の流入量を抑制します。
- ・地下への雨水浸透を促すことで、車の通行により排出される公害物質のろ過を図ることで河川の水質保全にも寄与します。

ポートランド市におけるバイোসウェイルの概念図 ▶
 [出典：ポートランド web サイト]



■透水性舗装の採用

- ・雨水貯留浸透型舗装ブロックを用いて、雨水を排水します。
- ・貯留した雨水を徐々に路盤に浸透させ、良好な水循環の再生や、周辺の樹木等への健全育成に寄与することができます。

馬込桜並木 ▶



■散策路を活用したにぎわい創出

- ・都市利便増進協定等を活用することで、道路の歩道空間を活用し、街の活性化に資するイベントの実施、植栽の管理、道路の清掃を公民連携で行うことができます。
- ・市街地等の道路では、パークレットを整備することで、道路空間におけるにぎわいの創出、憩いや交流の場を創出できます。



▲さいたま市 OOMIYA STREET PARK [出典：UDCO web サイト]



▲KOBE パークレット [出典：神戸市 web サイト]

(2) 本計画におけるグリーンインフラ導入方針の全体像 (イメージ)



3 グリーンインフラの取組展開

(1) グリーンインフラの取組展開について

大田区全域を対象に、順次グリーンインフラの取組を導入していく際には、「類型別グリーンインフラ導入方針」を踏まえ、まちづくりの課題解決に適切なグリーンインフラの取組を展開していく必要があります。

そこで、「防災・減災」、「環境」、「地域振興」の3つの視点から各地域が持つ課題を分析し、グリーンインフラのメニューを示します。

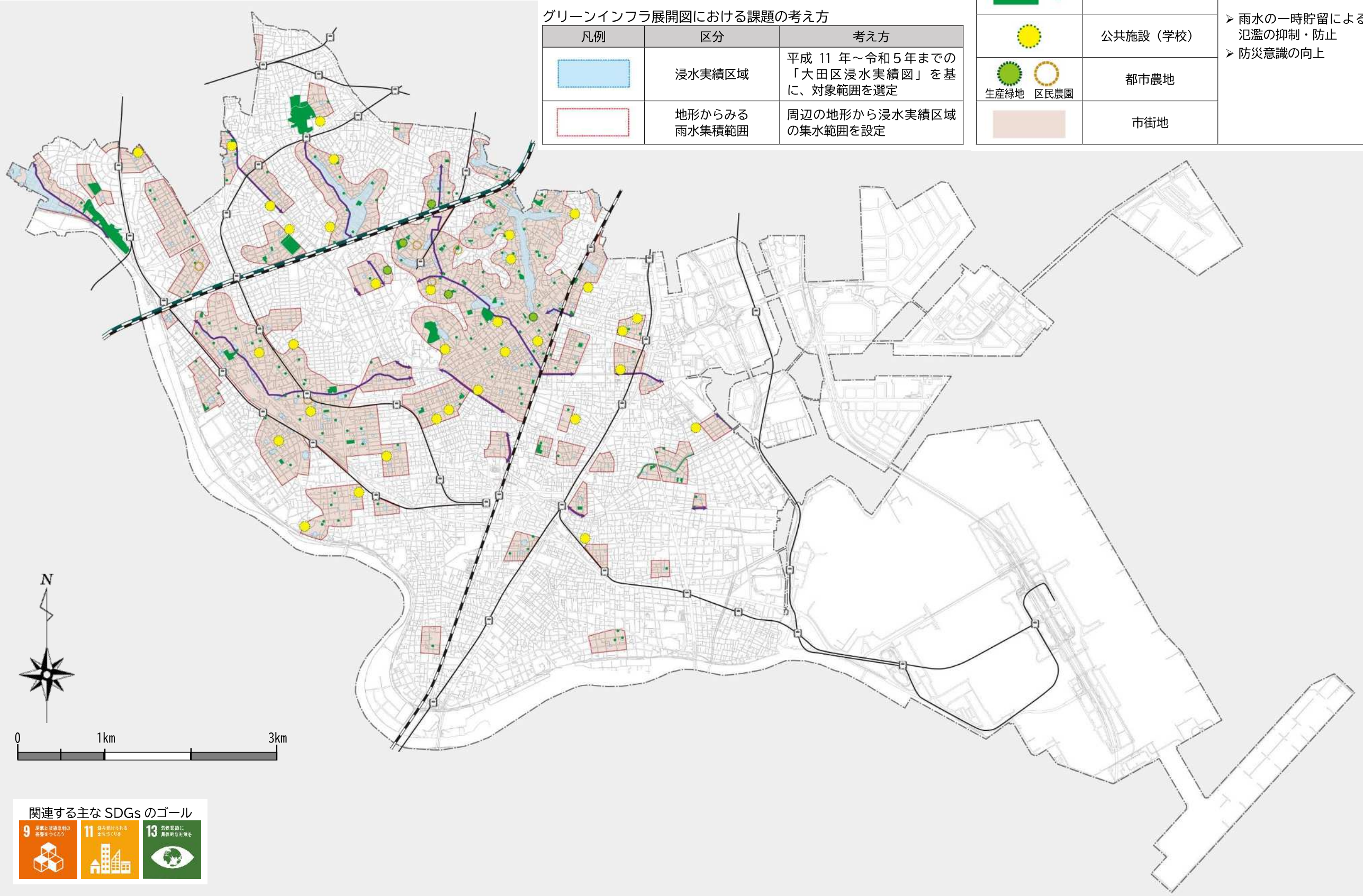
(2) 類型別のグリーンインフラの展開

「防災・減災」、「環境」、「地域振興」の視点から、各地域が持つ課題と、課題に対応したグリーンインフラの取組などについて次に示します。

区分	防災・減災	環境	地域振興
グリーンインフラの効果	○内水氾濫の防止 ○外水氾濫の防止 ○高潮発生時の避難場所の確保 ○急傾斜地の崩落防止 ○市街地での火災時の延焼防止 ○避難所の確保	○市街地の暑熱環境の緩和 ○生態系の保全・創出 ○海辺環境の保全・活用 ○うるおいが感じられる市街地形成	○市街地のにぎわいの形成 ○季節感の創出による都市の魅力向上 ○市街地のコミュニティの形成

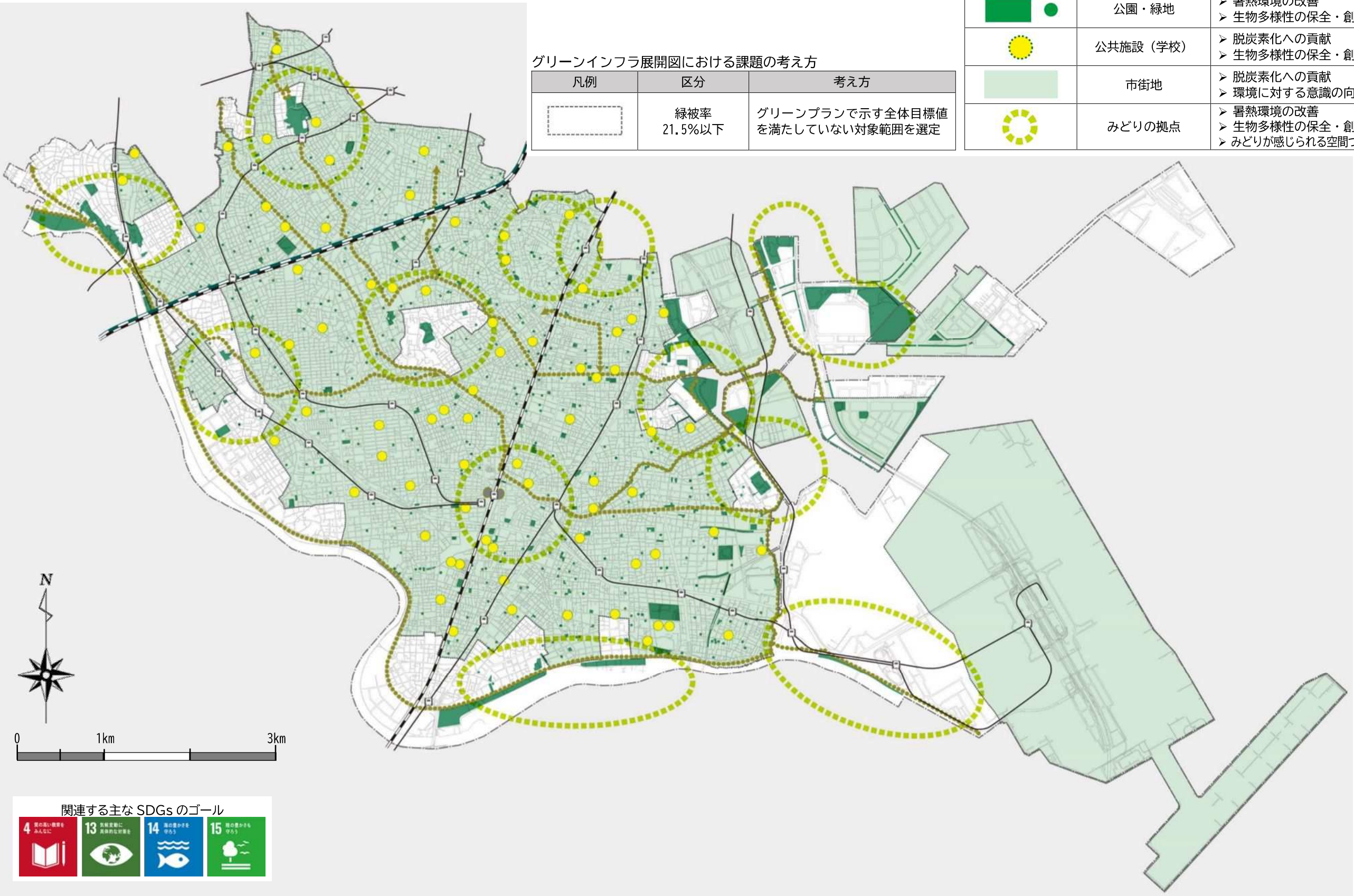
■類型別のグリーンインフラ展開図【防災・減災】

「防災・減災」の課題分析の視点を踏まえて特定した対象エリアに対し、グリーンインフラの機能を発揮させることで、みどりのまちづくりの課題解決へつなげます。



■類型別のグリーンインフラ展開図【環境】

「環境」の課題分析の視点を踏まえて特定した対象エリアに対し、グリーンインフラの機能を発揮させることで、みどりのまちづくりの課題解決へつなげます。



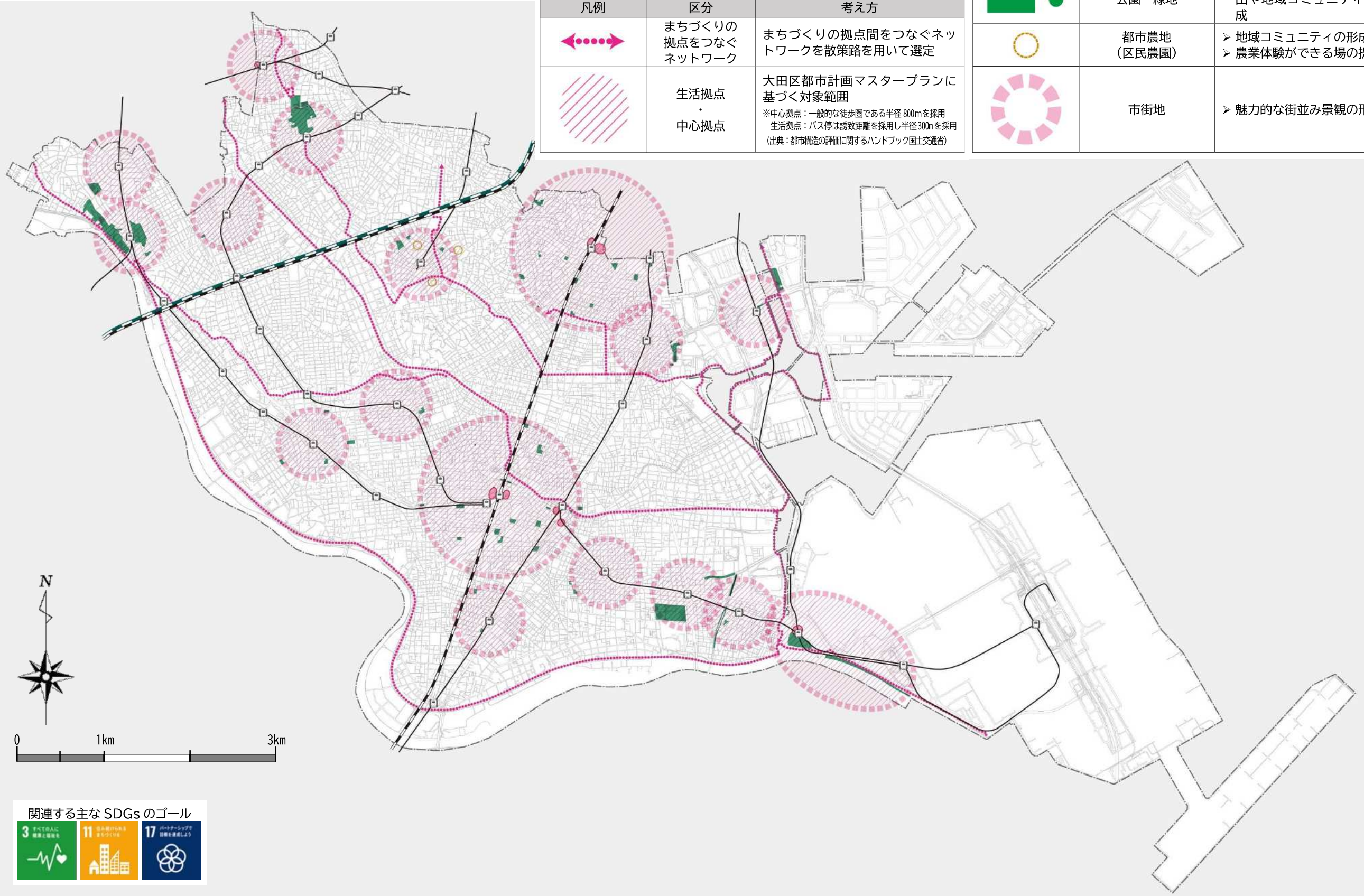
■類型別のグリーンインフラ展開図【地域振興】

「地域振興」の課題分析の視点を踏まえて特定した対象エリアに対し、グリーンインフラの機能を発揮させることで、みどりのまちづくりの課題解決へつなげます。

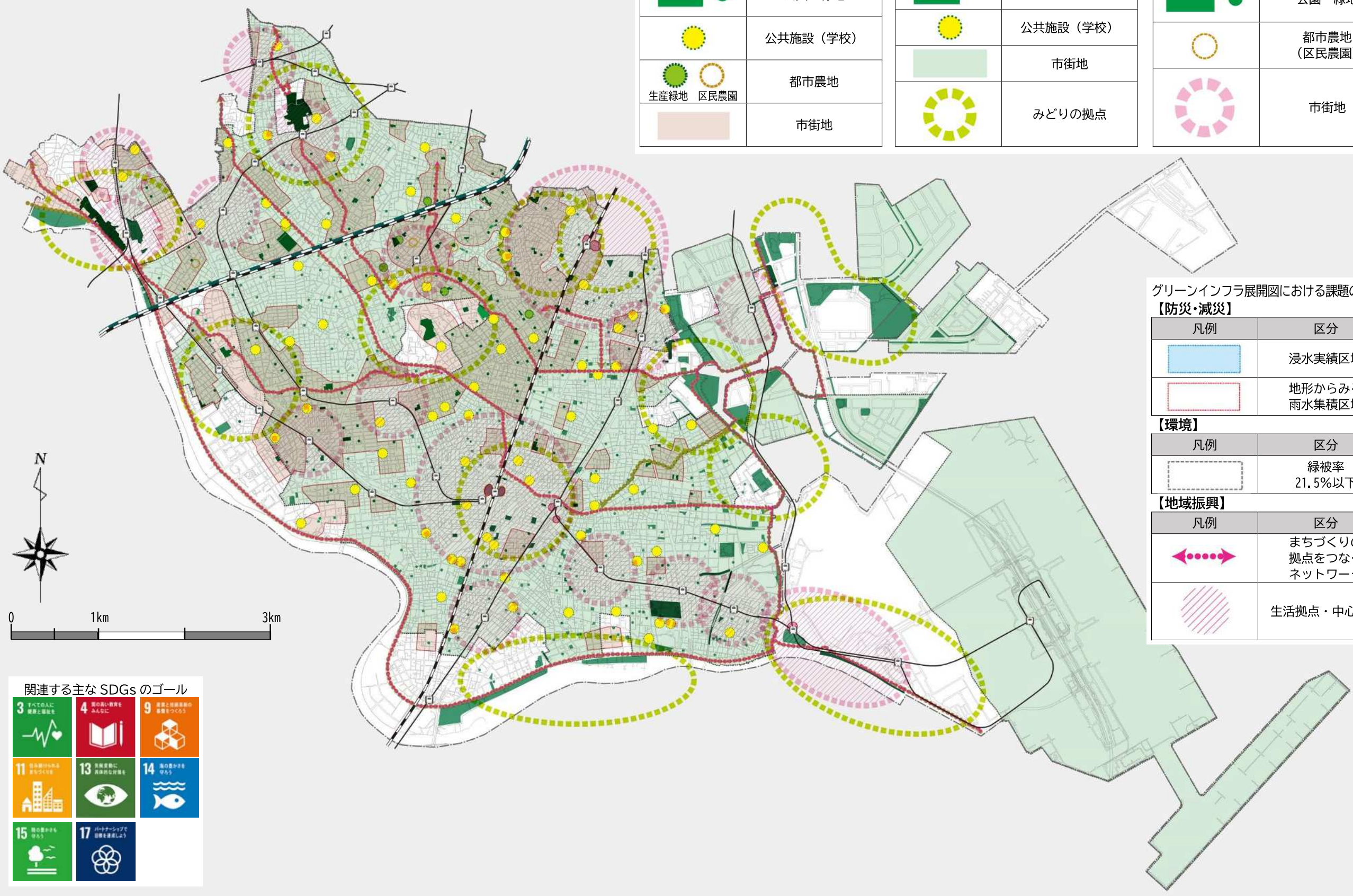
グリーンインフラ展開図における課題の考え方

凡例	区分	考え方
	まちづくりの拠点をつなぐネットワーク	まちづくりの拠点間をつなぐネットワークを散策路を用いて選定
	生活拠点・中心拠点	大田区都市計画マスタープランに基づく対象範囲 ※中心拠点：一般的な徒歩圏である半径800mを採用 生活拠点：バス停は誘致距離を採用し半径300mを採用 (出典：都市構造の評価に関するハンドブック国土交通省)

凡例	区分	グリーンインフラによる効果
	道路（散策路等）	➢ 魅力的な街並み景観の形成 ➢ にぎわい空間の創出
	公園・緑地	➢ レクリエーションの場の創出や地域コミュニティの形成
	都市農地（区民農園）	➢ 地域コミュニティの形成 ➢ 農業体験ができる場の提供
	市街地	➢ 魅力的な街並み景観の形成



■類型別のグリーンインフラ展開図 【防災・減災＋環境＋地域振興】



防災・減災 凡例	区分
	道路（散策路等）
	公園・緑地
	公共施設（学校）
	都市農地
生産緑地 区民農園	
	市街地

環境 凡例	区分
	道路（散策路等）
	公園・緑地
	公共施設（学校）
	市街地
	みどりの拠点

地域振興 凡例	区分
	道路（散策路等）
	公園・緑地
	都市農地（区民農園）
	市街地

グリーンインフラ展開図における課題の考え方

【防災・減災】	
凡例	区分
	浸水実績区域
	地形からみる雨水集積区域
【環境】	
凡例	区分
	緑被率21.5%以下
【地域振興】	
凡例	区分
	まちづくりの拠点をつなぐネットワーク
	生活拠点・中心拠点

関連する主なSDGsのゴール

3

すべての人に健康と福祉を

4

質の高い教育をみんなに

9

産業と技術革新の基盤をつくろう

11

住み続けられるまちづくりを

13

気候変動に具体的な対策を

14

海の豊かさを守ろう

15

陸の豊かさも守ろう

17

パートナーシップで目標を達成しよう

(3) 類型別のグリーンインフラ導入計画

市街地等

■グリーンインフラ導入計画

区分	グリーンインフラの取組内容	短期					中長期
		R6	R7	R8	R9	R10	R11以降
減 防 災 災	雨水浸透・貯留施設の設置	設置 					
環 境	みどり空間の創出・保全	保全 					
振 地 興 域	魅力的な街並み景観の形成	保全 					

■対象候補施設（防災・減災）＜R10 まで＞

田園調布一丁目付近、田園調布二丁目付近、田園調布三丁目付近、田園調布三丁目5・6番付近、田園調布四・五丁目付近、田園調布本町付近、田園調布南付近、北千束一丁目付近、南千束一丁目付近、石川町二丁目付近、東雪谷二丁目付近、南雪谷五丁目付近、上池台二・三・五丁目付近、北馬込一丁目付近、東馬込一丁目付近、中馬込二・三丁目付近、西馬込付近、南馬込一～三丁目付近、南馬込四～六丁目付近、仲池上付近、池上一丁目付近、池上三・四丁目付近、池上五丁目付近、池上七・八丁目、東矢口付近、久が原三丁目付近、南久が原・千鳥付近、西嶺町付近、鵜の木二丁目付近、下丸子一丁目・矢口一丁目付近、矢口二・三丁目付近、多摩川一丁目付近、山王一・二丁目付近、大森北一丁目付近、中央一・四～七丁目付近、中央二・三丁目付近、大森北六丁目付近、大森西二丁目付近、大森東一丁目付近、大森東四丁目・大森南一丁目付近、大森東五丁目付近、大森南二丁目付近、東邦大学医療センター付近、西蒲田五丁目付近、蒲田一丁目公園付近、蒲田二丁目付近、東蒲田一丁目付近、東蒲田二丁目付近、蒲田本町二丁目付近、西糀谷三丁目付近、西糀谷四丁目付近、西六郷二・三丁目付近、本羽田一・二丁目付近

■対象候補施設（環境）＜R10 まで＞

※緑被率 21.5%以下の町丁目のうち、下記を除く区域とする。

田園調布一丁目、田園調布三丁目、田園調布四丁目、田園調布五丁目、田園調布南、西嶺町、石川町一丁目、南千束二丁目、鵜の木一丁目、下丸子二丁目、下丸子三丁目、下丸子四丁目、矢口三丁目、池上一丁目、中央五丁目、東海一丁目、東海二丁目、東海三丁目、平和島四丁目、平和の森公園、大森東一丁目、大森東三丁目、ふるさとの浜辺公園、城南島四丁目、城南島五丁目、京浜島一丁目、京浜島三丁目、昭和島一丁目、西六郷三丁目、大森南五丁目、南六郷二丁目、南六郷三丁目、仲六郷四丁目、西六郷四丁目、東六郷三丁目、本羽田二丁目、羽田空港二丁目、羽田空港三丁目

■対象候補施設（地域振興）＜R10 まで＞

〔中心拠点〕 駅を中心とする半径 800mの区域

対象駅等：蒲田駅・京急蒲田駅、大森駅、羽田グローバルウイングズ

〔生活拠点〕 駅を中心とする半径 300mの区域

対象駅等：大岡山駅、田園調布駅、多摩川駅、雪が谷大塚駅、洗足池駅、西馬込駅、池上駅、下丸子駅、流通センター駅、平和島駅、雑色駅、糀谷駅、大鳥居駅、穴守稻荷駅

都市農地

■グリーンインフラ導入計画

区分	グリーンインフラの取組内容	短期					中長期
		R6	R7	R8	R9	R10	R11以降
防災・減災	雨水浸透・貯留施設の設置	検討					
環境	都市農地・区民農園の維持・保全						
地域振興	区立区民農園の整備 ※		整備				
	地域コミュニティの場の創出						

■対象候補施設（防災・減災）＜R10 まで＞（※再開予定の区民農園も含む）

〔生産緑地〕

中馬込三丁目 20 番街区、西馬込一丁目 31 番街区、仲池上二丁目 2 番街区、南馬込六丁目 9 番街区、南馬込六丁目 14 番街区、中央一丁目 17 番街区

〔区民農園〕

梅の木区民農園、南馬込区民農園、田園調布区民農園跡地（※）

■対象候補施設（環境）＜R10 まで＞（※再開予定の区民農園も含む）

梅の木区民農園、南馬込区民農園、田園調布区民農園跡地（※）、生産緑地（特定生産緑地）

■対象候補施設（地域振興）＜R10 まで＞（※再開予定の区民農園も含む）

梅の木区民農園、南馬込区民農園、田園調布区民農園跡地（※）

公園・緑地

■グリーンインフラ導入計画

区分	グリーンインフラの取組内容	短期					中長期
		R6	R7	R8	R9	R10	R11以降
減 防 災 災	雨水浸透・貯留施設の設置	検討 →			設置 →		
環 境	公園・緑地の整備	整備 →					
	みどり空間の維持管理	維持管理 →					
	生物生息空間の保全・整備		保全・整備 →				
	海辺環境の調査・保全	水質調査 →					検討 →
地 域 振 興	コミュニティ空間の創出	整備・維持管理 →					
	健康増進に関する機能充実	整備・維持管理 →					

■対象候補施設（防災・減災）＜R10 まで＞

〔区立公園〕

宝来、暁星苑、多摩川台、田園調布一丁目東、洗足池、石川、東調布、水神、かにくぼ、西嶺高砂、くすのき、北馬込わくわく、北馬込寺郷、上池台四丁目、上池台三丁目、馬込ゆりの木、馬込二本木、たぬき山、馬込自然林緑地、蘇峰、馬込西、湯殿、桜並木、桐里自然、龍子、中央五丁目、佐伯山緑地、山王花清水、大倉山、入新井西、根ヶ原緑地、春日、本門寺、入三西、若竹、くさっぱら、千鳥いこい、女塚なかよし、さくら通り三丁目、池上五丁目、つきやま、大森西七丁目、徳持、下丸子なかよし、蒲田一丁目、蒲田交差、北糀谷一丁目、旧呑川緑地、大森南第一、東蒲田二丁目

〔区立児童公園〕

石川町二丁目第三、しばざくらきんたろう、若竹、石川台、出世稲荷、ふうの木、田園調布本町、東久、西嶺、多摩堤、しんせい、鵜の木三丁目中央、鵜の木二丁目、南千束東、ねむの木、開光坂、三本松、せみやま、洗足流れ東雪、すずむし、東雪、南久が原二丁目、南久が原さつき、ことり、スクランブルパーク、コアラ、南久が原、こぼと、千鳥緑地、千鳥ふれあい、千鳥第二、千鳥三丁目、千鳥平成、ちどりみなみ、徳持、徳持第二、池上六丁目、池上八丁目、下丸子一丁目、矢口二丁目、今泉、古市中央、こまどり、古市中央第二、稲荷坂、中馬

込、ゆうやけ、馬込松原、大久保坂、宮ノ下にここにこ、まごめばし、しんめい、きたのこばと、北野天神山、平張第二、南馬込中和、南馬込さくら、臼田坂、桐里、根方、池上みどり、中央六丁目宮下、池上三丁目、下丸子一丁目、あずまにここにこ、堂寺、山王どんぐり、東馬込、山王稲穂、山王なかよし、北野にここにこ、あさひが丘、山王木原山、サンサン、平張、サンサン根岸、新井宿第一、龍子、山王三丁目、中央一丁目、富士が丘、新井宿、中央二丁目第二、中央二丁目第三、中央二丁目、大森西一丁目、子母沢、大森北青空、大森北六丁目南、市野倉北、新五フラワー、観音通り、こがねむし、東和、中央三丁目、大森西一丁目セブンパーク、市野倉南、中央八丁目第二、中央八丁目、西蒲田一丁目さくら、文化、大森西五丁目、本蒲田、蒲田二丁目、本二北、本二、出村、高畑第五、大森東四丁目第二、舞の浦、未広橋、竹の子、本羽田多摩、本羽田第二、はばたき

【区立児童遊園】

雪ヶ谷、東稲荷、嶺稲荷、西二、北野、弁天池、ひばり、弁天神社

■対象候補施設（環境）＜R10 まで＞

下記の町丁目を除く区域の区立公園、区立児童公園、区立児童遊園とする。

田園調布一丁目、田園調布三丁目、田園調布四丁目、田園調布五丁目、田園調布南、西嶺町、石川町一丁目、南千束二丁目、鵜の木一丁目、下丸子二丁目、下丸子三丁目、下丸子四丁目、矢口三丁目、池上一丁目、中央五丁目、東海一丁目、東海二丁目、東海三丁目、平和島四丁目、平和の森公園、大森東一丁目、大森東三丁目、城南島四丁目、城南島五丁目、京浜島一丁目、京浜島三丁目、昭和島一丁目、西六郷三丁目、大森南五丁目、南六郷二丁目、南六郷三丁目、仲六郷四丁目、西六郷四丁目、東六郷三丁目、本羽田二丁目、羽田空港二丁目、羽田空港三丁目

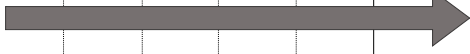
■対象候補施設（地域振興）＜R10 まで＞

【区立公園】

宝来、洗足池、多摩川台、田園調布せせらぎ、ふくし、蘇峰、馬込ゆりの木、馬込西、湯殿、つきやま、下丸子なかよし、徳持、矢口せせらぎ、池上五丁目、入新井、山王花清水、山王、大倉山、大森北、入新井西、清花、根ヶ原緑地、不入斗パーク、入三西、都堀、大森東一、大森西七丁目、西蒲田五丁目緑地、蒲田一丁目、蒲田交差、東矢口三丁目、東蒲田二丁目、京浜蒲田、西蒲田、本蒲田、仲蒲田、新蒲田、蒲田本町一丁目、蒲田本町二丁目、南前堀緑地、南蒲田三丁目さくら、六間堀緑地、仲六郷二丁目、仲六郷三丁目、萩中一丁目、萩中、おおたキヤナルサイドウォーク、六間堀仲羽、羽田西前、ソラムナード羽田緑地、(仮称)羽田空港公園

公共施設（学校等）

■グリーンインフラ導入計画

区分	グリーンインフラの取組内容	短期					中長期
		R6	R7	R8	R9	R10	R11以降
減 防 災 災	雨水貯留施設(雨水タンクなど)の設置	検討 		設置 			
環 境	みどり空間の創出・保全 (建築物の緑化、ビオトープの整備、植栽管理)	整備、維持管理 					
振 地 興 域	環境教育(グリーンインフラの取組)の実施	調査・研究 					

■対象候補施設（防災・減災）＜R10 まで＞

【小学校】

小池小学校、雪谷小学校、池雪小学校、山王小学校、東調布第三小学校、千鳥小学校、矢口西小学校、多摩川小学校、馬込第二小学校、梅田小学校、入新井第一小学校、入新井第二小学校、入新井第四小学校、入新井第五小学校、池上第二小学校、開桜小学校、大森第三小学校、中富小学校、南蒲小学校、矢口小学校

【中学校】

大森第六中学校、石川台中学校、田園調布中学校、雪谷中学校、馬込東中学校、大森第二中学校、大森第三中学校、大森第四中学校、大森第七中学校、大森第十中学校、蓮沼中学校、安方中学校

■対象候補施設（環境）＜R10 まで＞

【小学校】

清水窪小学校、洗足池小学校、雪谷小学校、調布大塚小学校、馬込小学校、久原小学校、東調布第三小学校、入新井第一小学校、徳持小学校、大森第五小学校、入新井第四小学校、おなづか小学校、道塚小学校、新宿小学校、志茂田小学校、西六郷小学校、仲六郷小学校、東六郷小学校、中富小学校、糞谷小学校、羽田小学校、中萩中小学校

【中学校】

蓮沼中学校、志茂田中学校、御園中学校、大森東中学校、出雲中学校、羽田中学校

■対象候補施設（地域振興）＜R10 まで＞

※該当なし

道路（散策路等）

■グリーンインフラ導入計画

区分	グリーンインフラの取組内容	短期					中長期
		R6	R7	R8	R9	R10	R11以降
減 防 災 災	雨水浸透・貯留施設の設置	検討			設置		
環 境	街路樹・植栽帯等の適切な維持管理	維持管理					
	木陰のできる歩行者空間の維持管理	維持管理					
	水と緑の感じられる散策路の整備	整備					
振 地 興 域	駅周辺まちづくりと連動した整備	整備					

■対象候補施設（防災・減災） <R10 まで>

【桜のプロムナード】	導入対象 6.7km	【経路延長 12km】
【呑川緑道】	導入対象 3.2km	【経路延長 18km】
【旧六郷用水散策路】	導入対象 3.0km	【経路延長 6.5km】
【水と緑の散策路】	導入対象 1.3km	【経路延長 15km】
【海辺の散策路】	導入対象 0.3km	【経路延長 10km】
※国道、その他道路、公園・緑地、護岸は除く		

■対象候補施設（環境） <R10 まで>

【桜のプロムナード】	導入対象 11.6km	【経路延長 12km】
【呑川緑道】	導入対象 10.9km	【経路延長 18km】
【旧六郷用水散策路】	導入対象 5.6km	【経路延長 6.5km】
【水と緑の散策路】	導入対象 15.4km	【経路延長 15km】
【海辺の散策路】	導入対象 10.0km	【経路延長 10km】 ※国道、その他道路、公園・緑地、護岸は除く
【駅前広場】	蒲田駅西口駅前広場、蒲田駅東口駅前広場	

■対象候補施設（地域振興） <R10 まで>

【桜のプロムナード】	※対象候補施設（環境）と同様	
【呑川緑道】	導入対象 8.9km	【経路延長 18km】
【旧六郷用水散策路】	※対象候補施設（環境）と同様	
【水と緑の散策路】	導入対象 14.7km	【経路延長 15km】
【海辺の散策路】	※対象候補施設（環境）と同様 ※国道、その他道路、公園・緑地、護岸は除く	
【駅前広場】	大森駅西口駅前広場、大森駅東口駅前広場、蒲田駅西口駅前広場、 蒲田駅東口駅前広場、京急蒲田駅西口駅前広場、 京急蒲田駅東口駅前広場、糀谷駅駅前広場、天空橋駅駅前広場	

第5章 グリーンインフラ推進に向けた目標と評価方法

第4章のグリーンインフラ導入計画を計画的・効果的に推進するために、推進目標及び評価の考え方や方法を示します。

1 推進目標

「防災・減災」、「環境」、「地域振興」の3つの視点から、グリーンインフラの取組を推進するための目標を設定し、毎年進捗管理を行います。

防災・減災	推進目標	民地・公共施設における雨水の一時貯留 《目標値》 各敷地を対象に、グリーンインフラ機能による 降雨5.5mm/h分の雨水貯留・浸透量の確保を目指す。
	目標の考え方	・内水氾濫を抑制するために、雨水の一時貯留を図る。 ※大田区浸水実績図（平成2年～令和5年） ・「東京都豪雨対策基本方針（改定）」（R5.12月 東京都）に基づき、グリーンインフラ機能により、降雨量5mm/h×1.1の5.5mm/hを目標値とする。 ・グリーンインフラの導入により、雨水貯留・浸透機能の拡充を図る。

環境	推進目標	緑の多さの満足度の向上 《目標値》 区民による“緑の多さ”に関する満足度について、70%を目指す。
	目標の考え方	・「大田区政に関する世論調査」を活用し、設問“住んでいるまちの生活環境”の“緑の多さ”の調査結果を用いて評価する。 ・目標値は、グリーンプランで示す値とする。
	推進目標	みどり空間の維持管理による避暑機能の充実 《目標値》 グリーンプランで示す9つのみどりの拠点について、木陰等における体感温度－7℃を目指す。
	目標の考え方	・グリーンプランで示すみどりの拠点9か所を避暑地として訪れた区民等の遮熱空間の確保を図る。 ・「まちなかの暑さ対策ガイドライン」（R5.3月改定 環境省）に基づく、木陰等で人が感じる暑さの低減効果から目標値を設定する。 ・区内の大規模公園を対象に、定期的に気温を定点観測することで、大田区の気温との差を算出する。
	推進目標	生物生息空間の保全・創出 《目標値》 公共施設における生物生息空間（公園・緑地、学校のビオトープ等）の箇所数を基準値として、それらの保全・創出を目指す。
	目標の考え方	・グリーンインフラの機能は、自然環境の有する機能を最大限発揮させていくことになるため、自然環境に欠かせない生物多様性の向上を指標として設定する。

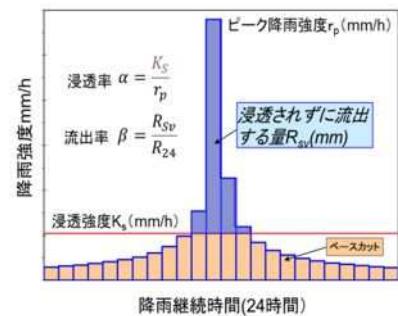
地域振興	推進目標	大田区への定住意向の確保 ≪目標値≫ 区民による“定住意向”について、 <u>85%</u>を維持・向上する。
	目標の考え方	・「大田区政に関する世論調査」を活用し、設問“定住意向”の調査結果を用いて評価する。 ・大田区への定住意向は、“ずっと住みたい”と“当分は住みたい”を合計した値とする。
	推進目標	住んでいる街の魅力度の確保 ≪目標値≫ 区民による“住んでいる街の魅力度”について、<u>70%</u>を維持・向上する。
	目標の考え方	・「大田区政に関する世論調査」を活用し、設問“住んでいる街の魅力度”の調査結果を用いて評価する。 ・住んでいる街の魅力度は、“感じている”と“やや感じている”を合計した値とする。

2 グリーンインフラの評価方法の例

目標値を推定するための評価方法について以下に整理しています。

<防災に関する評価方法>

評価概要	都市における貯留浸透（グリーンインフラ）施設や緑地等のもつ貯留浸透機能を、流出率の指標を用いて流出抑制効果を定量評価する。
定義	流出率は、24 時間計画雨量に対する総流出量の比とする。
算定方法	<計算方法> 流出率 $f_R = (RSV - WRC) / R_{24} = \beta - (WRC / R_{24})$ ※ここに、R_{24} は 24 時間計画雨量、WRC は貯留浸透（GI）施設の貯留高、β、RSV は右図参照。浸透がない場合は $\beta = 1.0$。 ※浸透強度 K_s (mm/h) および貯留高 WRC (mm) は、貯留浸透（GI）施設の浸透量や貯留量を集水面積で除して求められる ※浸透率 α と流出率 β の関係は降雨強度式を用いてノモグラフ化 ($t=1.0$ 分) <使用するデータ> - 降雨強度式、浸透量、貯留量、集水面積 <評価方法> - 流出率 f_R の目標値を定め、達成率で評価



β は浸透機能のみを考慮した流出率で、 f_R はさらに貯留機能を考慮した流出率

評価概要	都市における浸透（グリーンインフラ）施設や緑地等のもつ浸透機能について、浸透強度（浸透能）の指標を用いて、流出抑制におけるベースカット効果を定量的に評価する。
定義	浸透強度（浸透能）は、都市における緑地等の浸透域やグリーンインフラ（浸透）施設の浸透能力を示す指標で、1時間あたりの降雨量に換算して表す。
算定方法	<計算方法> 実測等により求められた緑地等のもつ浸透機能を整理した文献をもとに、該当する土地利用に対応した浸透強度（浸透能）と面積を求め、加重平均して算定する。 <使用するデータ> ・貯留・浸透に関する技術指針等、土地利用別浸透能 ・国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ <評価方法> ・例えば、流域平均浸透強度 10mm/hr を目標とし、その達成率で評価 グライ台地土 グライ土 暗赤色土 灰色谷地土 灰色低地土 褐色森林土 褐色低地土 黒ボク灰 黒ボク土 黒泥土 砂丘未熟土 多量黒ボク土 泥炭土 浸透 不適地 浸透 適地 浸透強度(浸透能)マップのイメージ 地力保全土壤図からの浸透適地マップ作成例

評価概要	緑地等のもつ（貯留）浸透機能について、実質浸透域率や平均流出係数の指標を用いて、流出抑制効果を定性的に評価する。
定義	・実質浸透域率は、都市における緑地等の浸透域の形成状況と浸透（グリーンインフラ）施設の整備状況を示す指標 ・平均流出係数は、都市における雨水の流出しやすさの度合いを示す指標
算定方法	<計算方法> ①実質浸透域率：浸透域面積と浸透施設によって機能的に雨水が浸透する面積の合計が総面積に占める割合 ②平均流出係数：土地利用毎の流出係数とその面積を用いて、総面積に対し加重平均したもの <使用するデータ> ①については、総面積、雨水が浸透施設に集水される区域を除いた構造物被覆地面積 ②については、総面積、土地利用毎の流出係数および面積 <評価方法> ①については、例えば目標値 30% に対する達成率 ②については、例えば目標値 0.6 に対する達成率、また流出量の削減分を下水道負荷軽減として捉え、その費用で評価する 実質浸透域 浸透域 雨水浸透施設によって機能的に雨水が浸透する面 透水性舗装 緑地 屋根に降った雨水等が流れ込む浸透ます ※港区緑と水の総合計画より

<環境に関する評価方法>

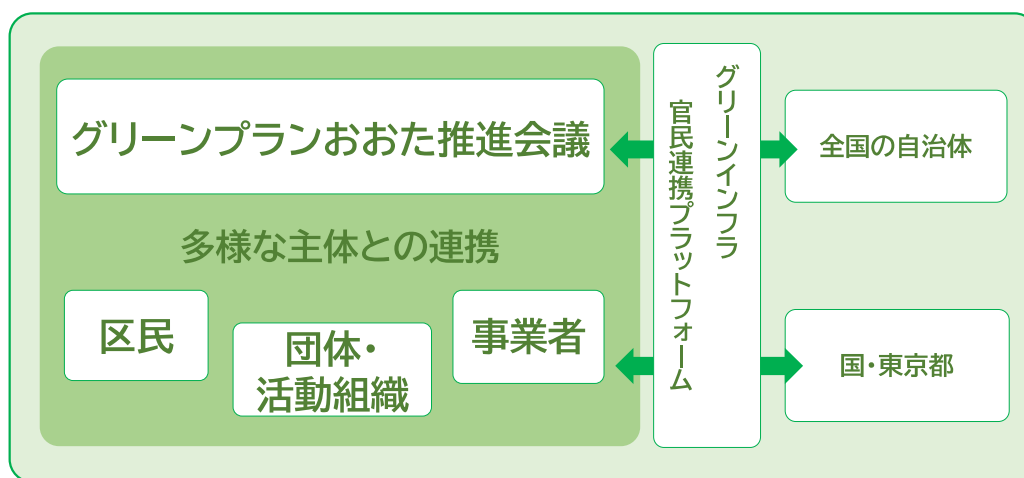
評価概要	グリーンインフラとして緑陰・芝生・保水性舗装等を導入した際に得られる日射制限・放射抑制機能について、熱中症予防指標 WBGT 又は快適性指標 SET*を用いて、夏期に屋外空間を利用する人の暑熱ストレス緩和効果を定量的に評価する。																												
定義	夏季晴天時、10時から14時の間で環境条件がほぼ同一の場所の無対策箇所と対策箇所を比較し、熱中症予防指標 WBGT 又は快適性指標 SET*で、評価区分をまたいで低下する取組を評価する。 WBGT 4 段階（0 から-3）SET*6 段階（0 から-5）																												
算定方法	<計算方法> $WBGT(^{\circ}C)=0.7\times \text{自然湿球温度}+0.2\times \text{黒球温度}+0.1\times \text{気温}$ SET* 非常に複雑な計算式になるため、市販演算ソフトを利用。 <使用するデータ> (WBGT) 湿球温度・黒球温度・乾球温度 (SET*) 気温・相対湿度・風速・平均放射温度 (MRT)・着衣量・代謝量 <評価方法> <table><tr><th>WBGT (℃)</th><th>注意すべき生活活動の目安</th><th>注意事項</th></tr><tr><td>危険 (31以上)</td><td rowspan="2">すべての生活活動でおこる危険性</td><td>高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。</td></tr><tr><td>厳重注意 (28～31)</td><td>外出時は炎天下を避け、室内では気温の上昇に注意する。</td></tr><tr><td>警戒 (25～28)</td><td>中等度以上の生活活動でおこる危険性</td><td>運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休憩を取り入れる。</td></tr><tr><td>注意 (25未満)</td><td>強い生活活動でおこる危険性</td><td>一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。</td></tr></table> <table><tr><th>SET* (℃)</th><th>快適感</th></tr><tr><td>33.3</td><td>非常に不快</td></tr><tr><td>32.1</td><td>不快</td></tr><tr><td>30.8</td><td>やや不快</td></tr><tr><td>28.4</td><td>どちらでもない</td></tr><tr><td>27.0</td><td>やや快適</td></tr><tr><td>27.0</td><td>快適</td></tr></table>	WBGT (℃)	注意すべき生活活動の目安	注意事項	危険 (31以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。	厳重注意 (28～31)	外出時は炎天下を避け、室内では気温の上昇に注意する。	警戒 (25～28)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休憩を取り入れる。	注意 (25未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。	SET* (℃)	快適感	33.3	非常に不快	32.1	不快	30.8	やや不快	28.4	どちらでもない	27.0	やや快適	27.0	快適
WBGT (℃)	注意すべき生活活動の目安	注意事項																											
危険 (31以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。																											
厳重注意 (28～31)		外出時は炎天下を避け、室内では気温の上昇に注意する。																											
警戒 (25～28)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休憩を取り入れる。																											
注意 (25未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。																											
SET* (℃)	快適感																												
33.3	非常に不快																												
32.1	不快																												
30.8	やや不快																												
28.4	どちらでもない																												
27.0	やや快適																												
27.0	快適																												

出典:まちなかの暑さ対策ガイドライン改訂版P67・68・72 環境省 平成30年3月

第6章 グリーンインフラ事業計画の推進に向けて

1 グリーンインフラの推進体制について

当計画に基づく取組を総合的かつ計画的に推進していくため、グリーンプランおおた推進会議を中心に、各関係部署が連携・協働し全庁的に取り組みます。また、取組状況や成果は、グリーンプランの改定及び事業の進捗状況、国内情勢の変化に応じて評価・検証し運用の改善を図ります。



国土交通省が創設したグリーンインフラ官民連携プラットフォームに参画します。各主体が連携した事例について情報収集し、区の取組についても積極的に発信していきます。

会員	都道府県 市町村	関係府省庁	民間企業 学術団体等	個人
	①グリーンインフラの推進 ポータルサイトでの情報提供、 アドバイザーの派遣等	②グリーンインフラの社会的な普及 シンポジウム・セミナーの開催、 アイデアコンテストの実施等	③グリーンインフラに係る調査・研究 課題の共有・整理、解決策の検討、 事例の共有、評価手法の検討等	④グリーンインフラ推進のための資金調達 グリーンボンド等の民間資金を活用 した取組事例の紹介等

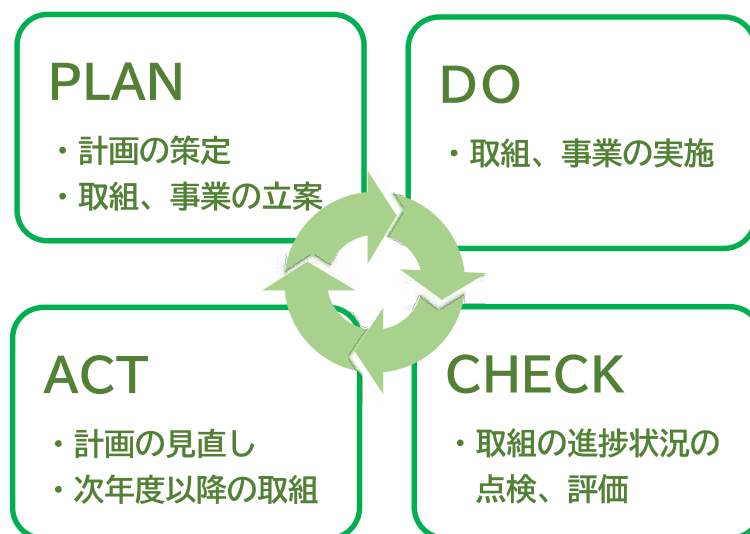
出典：グリーンインフラ官民連携プラットフォーム
https://gi-platform.com/know_activity/about

2 計画の見直しについて

各年度の取組の点検・評価と、計画期間における改定・見直しを図るため、PDCAサイクル（Plan＝計画、Do＝実行、Check＝点検・評価、Act＝見直し）による進行管理を行い、当計画をより実効性の高いものとします。

当計画の策定に当たり、グリーンプランおおた推進会議において、毎年度、各取組の進捗状況を区から報告し、進捗を点検・評価します。

計画期間の最終年度には、各年度までの目標達成状況、成果、課題等を整理し、進捗を点検・評価します。その上で、グリーンプランおおた推進会議の意見を聴取し、計画の見直しを行います。



用語解説一覧

用 語	解 説
30by30	2030 年までに、陸と海の 30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標のこと。
DX	デジタルトランスフォーメーション（Digital Transformation）の略。デジタル技術で社会や生活の形を変えること。
SDGs	Sustainable Development Goals（＝持続可能な開発目標）の略。2015 年 9 月に開催された国連サミットにおいて採択された「2030 アジェンダ」の中核となる、2030 年までに達成すべき国際目標。
Well-being	身体的・精神的・社会的に満たされた状態。
あ行	
維管束植物	維管束と呼ばれる通道組織を有する植物の総称。具体的には、シダ植物および種子植物（裸子植物、被子植物）をいい、菌類、藻類、コケ類などと区別される。
イシサンゴ類	炭酸カルシウムの硬い骨軸をつくるサンゴ。ハードコーラルとも呼ばれる。
ウォークアブルシティ	街路空間を車中心から人中心の空間へと再構築し、沿道と路上を一体的に使って、人々が集い憩い多様な活動を繰り広げられるようにした街のこと。
オープンスペース	公園、広場、河川、農地など、建物や工作物などによって覆われていない土地。
か行	
カーボンニュートラル	温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること。2020 年 10 月、政府は 2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言した。「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味する。
外水	堤外地を流れる川の水のこと。
崖線	台地が河川などにより削られてできた段丘が延々と続く崖地。区内には国分寺崖線と南北崖線があり、湧水や樹林地など豊かで貴重な自然が残されている。
乾球温度	周囲の通風を妨げない状態で、輻射（放射）熱による影響を受けないように球部を囲って測定された乾球温度計が示す値。

用 語	解 説
環境学習	地球環境保全、公害の防止、自然環境の保護・整備その他の環境の保全についての理解を深めるために行われる、これに関する教育・学習。
汽水	河川と海の接点で、海水と淡水が混ざり合っている状態。
区民農園	区内の民有農地等を活用し実施している取組で、区民が余暇活動の一環として、身近な場所で野菜や花などの農芸作物の栽培を体験するための施設。
計画雨量	ある河川流域の計画に用いる雨量で、年超過確率で評価される規模と降雨断続時間によって決められる。
交流人口	その地域に訪れる人々のこと。
黒球温度	次の特性を持つ中空黒球の中心に位置する温度計が示す値。 (1)直径が 150mm であること(2)平均放射率が 0.95（つや消し黒色球）であること(3)厚さが出来るだけ薄いこと
こどもまんなか社会	こどもの最善の利益を第一に考え、こどもに関する取組・政策を我が国社会の真ん中に据えた社会。
さ行	
サードプレイス	家庭を第一の場所、学校、職場を第二の場所とした際に、居心地の良い空間として趣味や息抜き場となり、心がやすらぎ、人々のストレスが軽減される大切な場所。
自然湿球温度	強制通風することなく、輻射（放射）熱を防ぐための球部の囲いをしない環境に置かれた濡れガーゼで覆った温度計が示す値。
浸透ます	雨水などを集めて、一部を地面に吸収させることを目的とした集水設備。
水源涵養	森林に降った雨や雪などの降水や水田の水が、地中（土壌）に浸透し、地下水となりゆっくりと流れ出ること、洪水や渇水が緩和されたり、澄んだ美しい水を供給したりする働きのこと。
生産緑地	市街化区域内の農地などで、公害又は災害の防止、農林漁業と調和した都市環境の保全等良好な生活環境の確保に相当の効用があり、生産緑地法に基づき都市計画として定めた生産緑地地区内の農地など。生産緑地に指定されると農地などとして管理しなければならない一方、税制面での優遇措置を受けられる。
生態学的ニッチ	生態的地位のこと。動物であれば、餌となる植物や他の動物、隠れ家など、また、植物であれば、光合成に必要な太陽光や根を張るための土壌など、生物が自然の生態系内で生きていくために不可欠なもの（環境）がある。生物種が生態系内でこれらを巡る種間の競争競争に勝つか、耐え抜いて、得た地位が生態的地位（ニッチ）である。
生物多様性	自然生態系を構成する動物、植物、微生物など地球上の豊かな生物種の多様性とその遺伝子の多様性、そして地域ごとの様々な生態系の多様性をも意味する包括的な概念。

用 語	解 説
相対湿度	空気中には気温ごとに水蒸気を含むことが出来る量の限界（飽和水蒸気量）が決まっていて、その限界までのうち何%含んでいるかを示すもので、一般的に天気予報などで使われるもの。 これ対し、絶対湿度は、縦横高さ 1 メートルの空間に含まれる水蒸気の重さが何グラムかを示す。
た行	
脱炭素化	人の活動に伴って発生する温室効果ガスの排出量と吸収作用の保全及び強化により吸収される温室効果ガスの吸収量との間の均衡が保たれること。
堤内地・堤外地	堤防によって洪水氾濫から守られている住居や農地のある側を堤内地、堤防に挟まれて水が流れている側を堤外地と呼ぶ。
デジタル田園都市国家構想	デジタル実装を通じて地方が抱える課題を解決し、誰一人取り残されずすべての人がデジタル化のメリットを享受できる心豊かな暮らしを実現するという国の構想。
特別緑地保全地区	都市緑地法などで定められた緑地保全制度の一つで、都市内の緑地を特別緑地保全地区として都市計画に定めることにより、木竹の伐採など一定の行為を許可制とし、現状凍結的に緑地を保全する制度。
都市利便増進協定	広場・街灯・並木など、住民や観光客等の利便を高め、まちのにぎわいや交流の創出に寄与する施設（都市利便増進施設）を、個別に整備・管理するのではなく、地域住民・まちづくり団体等の発意に基づき、施設等を利用したイベント等も実施しながら一体的に整備・管理していくための協定制度。
な行	
内水氾濫	下水道等の排水施設の能力を超えた雨が降った時や、雨水の排水先の河川の水位が高くなった時等に、雨水が排水できなくなり浸水する現象。
ネイチャーポジティブ	自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること。
ノモグラフ	数値計算を簡便に行なうために用いる図表。
は行	
パークレット	車道の一部を転用して作られた歩行者の為の空間。
パーゴラ・ベンチ	つる性の植物を絡ませる木材やアルミなどで組んだ屋根のない棚にベンチがついたもの。日よけや美観を向上させる効果がある。
ビオトープ	ドイツ語で生物を意味する「ビオ（Bio）」と場所を示す「トープ（Tope）」の合成語のこと。本来は1つの生物種にとって必要な空間のまとまりを意味するが、現在では元来そこにあった自然風景、生態系を回復・保全した区域を含んでいる。
ヒートアイランド現象	都市活動の結果、都市中心部の気温がその周辺の郊外部に比べて高くなる現象のことで、都市規模が大きいほど影響も大きい傾向にある。。

用 語	解 説
不燃化特区制度	東京の木造住宅密集地域のうち、特に重点的・集中的に改善を図る地区を指定し、都と区が連携して不燃化を強力に推進して「燃え広がらない・燃えない」まちづくりを進める制度。
ブルーカーボン	沿岸・海洋生態系が光合成により CO ₂ を取り込み、その後海底や深海に蓄積される炭素のこと。ブルーカーボンの主要な吸収源としては、藻場（海草・海藻）や塩性湿地・干潟、マングローブ林があげられる。
平均放射温度（MRT）	暑さ感を示す体感指標の一つで、周囲の全方向から受ける熱放射を平均化して温度表示したもの。MRT の値が気温よりも高いと、周囲から受ける放射熱による暑さを感じ、逆に気温よりも低いと涼しさを感じる。
ベースカット	降雨による流出量から一定量差し引き、雨水流出量の抑制を図ること。
防災公園	災害時に避難地として救援機能、輸送等の中継拠点機能を担う公園。東京都では、都立公園のうち、総合的な防災計画である「東京都地域防災計画」の中で「大規模救出救助活動拠点」や「ヘリコプター活動拠点」に位置付けられているもの、火災などの危険から避難するための「避難場所」の指定を受けている公園のことを指す。
ま行	
マルチング	植物が植えてある地表面を、ポリエチレンフィルムなどの資材で覆うこと。 マルチングを行うことで、地面の温度調節、雑草・病害虫の発生の予防、土が固くなるのを防ぐ等の効果が得られる。
ら行	
流出率	河のある地点の上流域（集水域）に降った雨のどれだけの割合がその地点に流れ出てくるかを示す値。
緑被率	緑被地（樹木被覆地、草地、屋上緑地等）が、区域面積に占める割合。
レイズドベッド	周りの地面よりも高くなっている花壇のこと。レンガやブロック、石を積んだり板で囲ったりして周囲よりも高くした中に土を入れて、植物を植える。水はけ、風通し、日当たり、見た目の改善等の効果が得られる。
レッドデータブック	すでに絶滅した、あるいは近いうちに絶滅しそうな生き物の種類やその原因などをとりまとめた本。
わ行	
ワイルドフラワー	オーストラリアや南アフリカなどの南半球に自生する植物の総称。乾燥地帯の厳しい環境への適応によるユニークで独特なフォルムやカラー、質感が特徴。
ワンド	河川敷にできた池状の入り江のことで、本川から離れた溜まりも含む。希少な魚をはじめ、種々の生物が共存する豊かな環境であることが認識され、その価値が評価されている。

